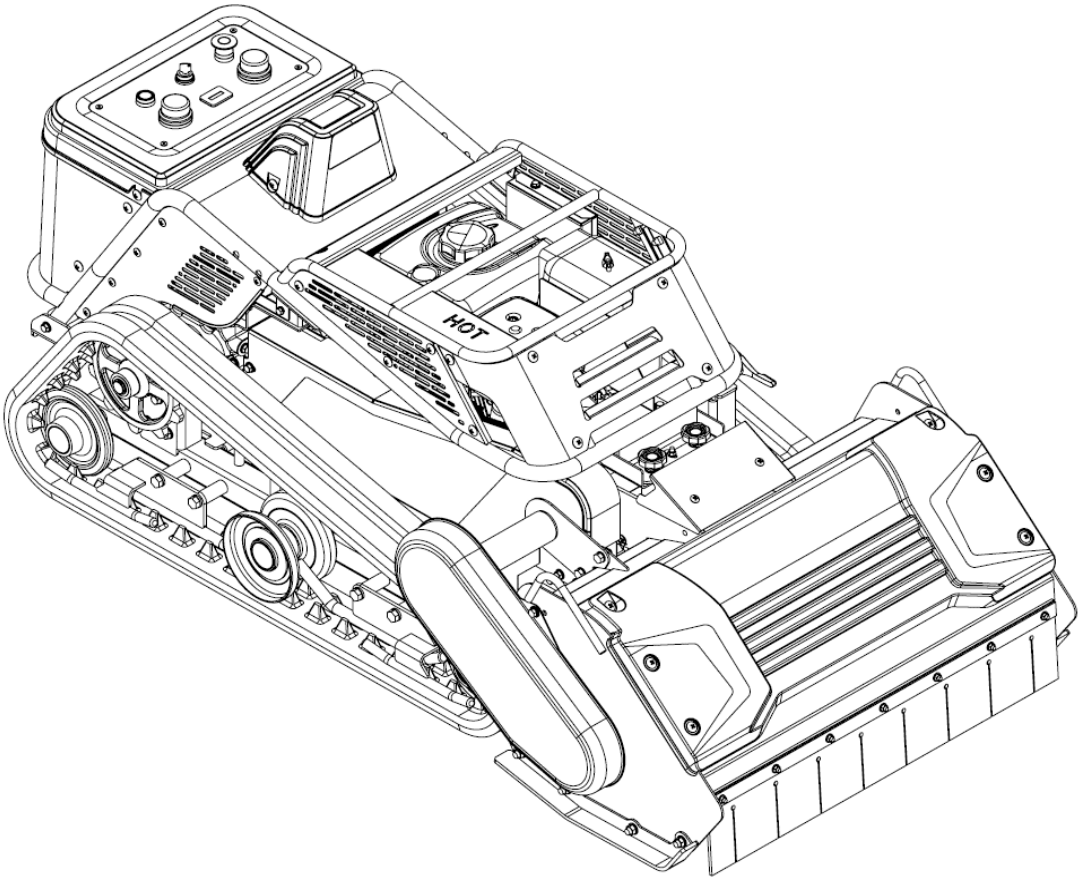
ラジコン草刈機

AIRAVO

GRASS CUTTER AIR700

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。
いつまでも大切に保管してください。

オカネツ工業株式会社

●はじめに

このたびは、ラジコン草刈機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書には本機の正しい取扱い方と簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、安全で快適な作業をしてください。

・この取扱説明書をお読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
・この取扱説明書を紛失または損傷した場合は速やかに「お買い上げの販売店」でご注文ください。
・本製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を本製品といっしょにお渡しください。
・本製品は品質・性能向上あるいは安全上のために使用部品を変更することがあります。
　その際に本書の内容およびイラスト等の一部が、本製品と一致しない場合がありますので、
　あらかじめご了承願います。

●本製品の仕様目的について

・本製品は草刈作業に使用し、それ以外では使用しないでください。
・本製品は、30°を超える傾斜地では使用しないでください。
・本製品を使用目的以外の作業や性能を越える作業、または改造した場合は、保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

●安全にかかわる表示について

・本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
・機械に貼っているラベルがなくなったり汚れたりして読めなくなった場合や、ラベルの貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを「お買い上げの販売店」に注文して購入し貼り替えてください。

注意表示について

・本書では特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように区分して表示しています。

⚠ 危　険	その警告に従わなかった場合は、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警　告	その警告に従わなかった場合は、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注　意	その警告に従わなかった場合は、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

重要なお知らせ

１．オカネツ工業株式会社（以下当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかった場合や、オカネツラジコン草刈機（以下ラジコン草刈機と記す）を改造した場合、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしなかった場合に生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。

２．このラジコン草刈機の取扱い上の危険性について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項やラジコン草刈機に表示してある注意事項は、すべての危険性を想定しているわけではありません。したがって、ラジコン草刈機の運転操作または日常点検や保管を行う場合は、この取扱説明書の記載およびラジコン草刈機本体に表示されている事項に限らず、安全対策に関しては十分な配慮が必要です。

３．ラジコン草刈機の性能や耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、日常の取扱いや整備の実施状況も影響いたします。この取扱説明書の指示事項を守って、確実な取扱いをしてください。

４．このラジコン草刈機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。このラジコン草刈機を国外に持ち出した場合に当該国での使用に対し事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

５．事故や傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外のラジコン草刈機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はしないでください。

目　次

1. 安全に作業するために

1-1 作業前に必ず守ること ・・・ 3
◆運転する前に ・・・ 3
◆使用する人の条件 ・・・ 3
◆使用する人の服装 ・・・ 3
◆他人に貸すとき ・・・ 3
◆周囲への注意 ・・・ 3
◆運転前の点検・整備 ・・・ 3
1-2 作業中に必ず守ること ・・・ 3
◆エンジンを始動するとき ・・・ 3
◆自動車への積込み・積降ろし ・・・ 4
◆走行運転するとき ・・・ 4
◆草刈作業するとき ・・・ 4
◆機械から離れるとき ・・・ 4
1-3 作業後に必ず守ること ・・・ 4
◆洗車・清掃するとき ・・・ 4
◆点検・整備するとき ・・・ 4
◆長期格納するとき ・・・ 5
◆機械の改造禁止 ・・・ 5
◆廃棄物の処理について ・・・ 5
1-4 表示ラベルと貼付位置 ・・・ 6

2. サービスと保証について

2-1 商品の保証 ・・・ 8
2-2 ご相談窓口 ・・・ 8
2-3 表示ラベルの位置 ・・・ 8
2-4 補修用部品の供給年限について ・・・ 8

3. 各部の名称とはたらき

3-1 各部の名称(本機) ・・・ 9
3-2 各部のはたらき(本機) ・・・ 10
・キースイッチ ・・・ 10
・エンジンスイッチ(緑) ・・・ 10
・非常停止スイッチ(赤) ・・・ 10
・表示ランプ ・・・ 10
・アワメータ ・・・ 11
・スロットルレバー ・・・ 11
・電装ボックス ・・・ 11
・フィルタ(細目・並目) ・・・ 11
・刈刃カバー ・・・ 12
・飛散防止カバー ・・・ 12
・スキッド ・・・ 12
・ヘッドカバー ・・・ 12
・バッテリ ・・・ 12
3-3 各部の名称(送信機) ・・・ 13
3-4 各部のはたらき(送信機) ・・・ 14
・電源スイッチ ・・・ 14
・左スティック(前後) ・・・ 14
・右スティック(左右) ・・・ 14
・刈刃クラッチスイッチ ・・・ 14
・刈高調整ダイヤル ・・・ 14
・右トリムスイッチ ・・・ 15
・バッテリ ・・・ 15

4. 作業前点検

4-1 作業前の点検 ・・・ 16

5. 運転と作業のしかた

5-1 エンジン始動のしかた ・・・ 18
5-2 エンジン停止のしかた ・・・ 19
5-3 運転のしかた ・・・ 20
5-4 作業のしかた ・・・ 21
5-5 駐車・停車のしかた ・・・ 22
5-6 自動車への積込み・積降ろし ・・・ 23

6. 作業後の手入れのしかた

6-1 作業後の手入れ ・・・ 25
6-2 エンジン回りの清掃 ・・・ 25
6-3 エアクリーナの清掃 ・・・ 25
6-4 フィルタの清掃 ・・・ 25
6-5 クローラの清掃 ・・・ 25
6-6 刈刃の清掃 ・・・ 25

7. 定期点検・整備のしかた

7-1 定期点検整備 ・・・ 26
・定期点検整備表 ・・・ 26
・給油・油脂表 ・・・ 28
7-2 燃料の点検と補給 ・・・ 29
7-3 エンジンオイルの点検と交換 ・・・ 29
7-4 ミッションオイルの点検と交換 ・・・ 30
7-5 エアクリーナの清掃 ・・・ 30
7-6 燃料カップの清掃 ・・・ 31
7-7 点火プラグの点検と清掃 ・・・ 31

目　次

7-8 リコイルカバーの清掃 ･･･ 31
7-9 燃料ホースの点検 ･･･ 31
7-10 スロットルワイヤの点検と調整 ･･･ 32
7-11 クローラの点検と調整と交換 ･･･ 32
7-12 Ｖベルトの点検と調整 ･･･ 33
・発電用ベルトの調整 ･･･ 33
・駆動用ベルト(車両側)の調整 ･･･ 33
・駆動用ベルト(刈刃側)の調整 ･･･ 33
7-13 刈刃の点検と交換 ･･･ 34
7-14 刈刃カバーの清掃 ･･･ 34
7-15 飛散防止カバーの点検 ･･･ 34
7-16 バッテリの点検 ･･･ 35
7-17 フィルタの点検 ･･･ 35
7-18 電気配線の点検 ･･･ 35

8. 長期格納のしかた

8-1 長期格納 ･･･ 36
8-2 再使用するとき ･･･ 36

9. 不調時の処置

9-1 エンジン関係 ･･･ 37
9-2 本機関係 ･･･ 38

10. 付表

10-1 仕様諸元 ･･･ 40
10-2 標準付属品 ･･･ 41
10-3 消耗部品一覧 ･･･ 41

1. 安全に作業するために

・ここに記載している注意事項は、本製品を安全に正しくお使いいただくための内容です。よく読んで必ず守ってください。
・これ以外にも、本文の中では危険・警告・注意・重要としてその都度取り上げています。
必ずこの取扱説明書および本機のラベルをよく読んで理解したうえで安全な作業をしてください。

1-1 作業前に必ず守ること

◆運転する前に

・機械を動かす前に取扱説明書と機械に貼ってある ⚠ 表示ラベルをよく読み理解して運転してください。

◆使用する人の条件

次の項目に該当する人は、機械を使用しないでください。
・本書および貼付ラベルの内容が理解できない人
・視力不足等で表示内容が読めない人
・酒気をおびた人
・妊娠している人
・16歳未満の人
・指導者のいない運転未熟練者
・過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない人

◆使用する人の服装

作業にあった服装をしてください。
・だぶついた服、はち巻き、腰タオル、サンダルでの作業はやめてください。
・安全靴、手袋、保護メガネ、ヘルメット等、適切な保護具を着用してください。

◆他人に貸すとき

・本機を他人に貸すときは取扱説明書もいっしょに渡して、安全作業ができるよう説明してください。
・本機の運転操作はよく練習し、十分慣れてから作業してください。
・本書および貼付ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転をさせないでください。

◆周囲への注意

・人や動物を近づけないでください。
・自動車や建物がないことを確認してください。
・作業範囲内に穴や側溝、岩や倒木等、走行を妨げるのがないことを確認してください。
・作業範囲内の石等の硬い物や、ひも状の巻き付きやすい物は、事前に取除いてください。

◆運転前の点検・整備

・平坦な場所でエンジンを停止し、電源を切ってください。
・機械に貼っているラベルがなくなったり、汚れたりして読めなくなったときは、新しいラベルに貼り換えてださい。
・取外したカバー等は元の位置に取付けてください。
・刈刃を固定するボルト・ナットにゆるみがあれば確実に締付けてください。もしくは新品に交換してください。
・刈刃が脱落・破損していたときは、刈刃・ボルト・ナットをいっしょに新品と交換してください。
・高温となるエンジン・マフラ・燃料タンクの周囲や、リコイルカバーに堆積したごみや草くずを除いてください。
・電気配線の外皮のはがれや、燃料もれがないか点検してください。
・燃料を補給するときは機械を平坦な場所に移動してから止めて、エンジンを停止して電源を切ってから行なってください。

1-2 作業中に必ず守ること

◆エンジンを始動するとき

・機械の周囲から人を遠ざけてください。
・周囲の安全を確認してから、エンジンを始動してください。
・屋内で始動するときは、窓や戸を開けて換気を十分にしてください。

1. 安全に作業するために

◆自動車への積込み・積降ろし

・自動車は荷台に天井のない車を使用してください。
・自動車は本機が荷台からはみ出さない車を使用してください。
・自動車はエンジンを停止して駐車ブレーキをかけ、タイヤに輪止めをしてください。
・アユミ板は、強度、幅、長さ(荷台高さの4倍以上)、すべり止め、フックがあるものを使用してください。
・アユミ板の強度は本機の重量に耐えるものを使用してください。
・アユミ板は自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認してください。
・周囲を確認したのち、機械に人を近づけないでください。
・アユミ板の上では方向転換しないでください。
・アユミ板の上では駐停車しないでください。
・積込み・積降ろしのときは刈刃部を最も高い位置まで上げ、刈刃がアユミ板に引っかからないようにしてください。
・積込み・積降ろしは低速で行なってください。

◆走行運転するとき

・30°を超える傾斜地では、運転しないでください。
・夜間や暗い所、見通しの悪い場所では、運転しないでください。
・本機は防水性を有しておりませんので、雨天のときは運転しないでください。
・段差のある路肩や水際では、走行しないでください。
・道路交通法違反で罰せられることがありますので、公道では走行しないでください。
・刈刃を回転させたまま走行しないでください。
・人や物を機械にのせないでください。
・急発進、急停車、急旋回はしないでください。
・わき見運転をしないでください。
・あぜや溝を横断するときはアユミ板を使用してください。

◆草刈作業するとき

・石等の異物の飛散により、人、動物、自動車、建物等に被害をあたえることがありますので15m以上離れた場所で作業してください。
・人が本機から半径15m以内に接近したときは速やかに作業を中止してください。
・あぜ際では枕地に余裕をとって旋回してください。
・作業中に障害物に接触したときは、エンジンを停止して電源を切ってから点検してください。
そのとき、刈刃の折損や脱落があれば交換してください。
・疲れを感じたときは無理に作業は続けず、休憩してください。
・初期消火のため、付属の消火スプレーまたは小型消火器などを携帯してください。

◆機械から離れるとき

・機械を平坦な場所に止めて、エンジンを停止してから電源を切ってください。
・燃えやすい物の近くでは止めないでください。
・本機は駐車ブレーキを装備しておりませんので、斜面では絶対に停車・駐車しないでください。
やむをえず止めるときはクローラに輪止めをしてください。
・使用しないときやその場を離れるときは、キーを抜いて保管してください。

1-3 作業後に必ず守ること

◆洗車・清掃するとき

・機械を平坦な場所に止めて、エンジンを停止してから電源を切ってください。
・モータやエンジン等の高温部が完全に冷えてから、行なってください。
・高圧洗浄機は故障の原因になりますので、絶対に使用しないでください。
・電装品やエンジンまわりの電気配線部、エアクリーナには水をかけないでください。
・洗車したあとは水分を拭き取ってください。

◆点検・整備するとき

・機械を平坦な場所に止めて、エンジンを停止してから電源を切ってください。
・広くて明るい場所で実施してください。
・適正な道具・工具で正しく使用して行なってください。

1. 安全に作業するために

・取外したカバー等は元の位置に取付けてください。

◆長期格納するとき

・本機にシートカバーをかけるときはモータやエンジン等の高温部が完全に冷えてから行なってください。
・機械の掃除・点検・整備をして、風通しのよい平坦な屋内に格納してしてください。
・クローラに輪止めをしてください。
・燃料コックは閉めてください。
・気化器内の燃料を抜き取ってください。
・マイナスコード(黒)を外すかバッテリを取外してください。
・キーを抜いて本機から離れた安全な場所に保管してください。

◆機械の改造禁止

・機械は改造しないでください。

◆廃棄物の処理について

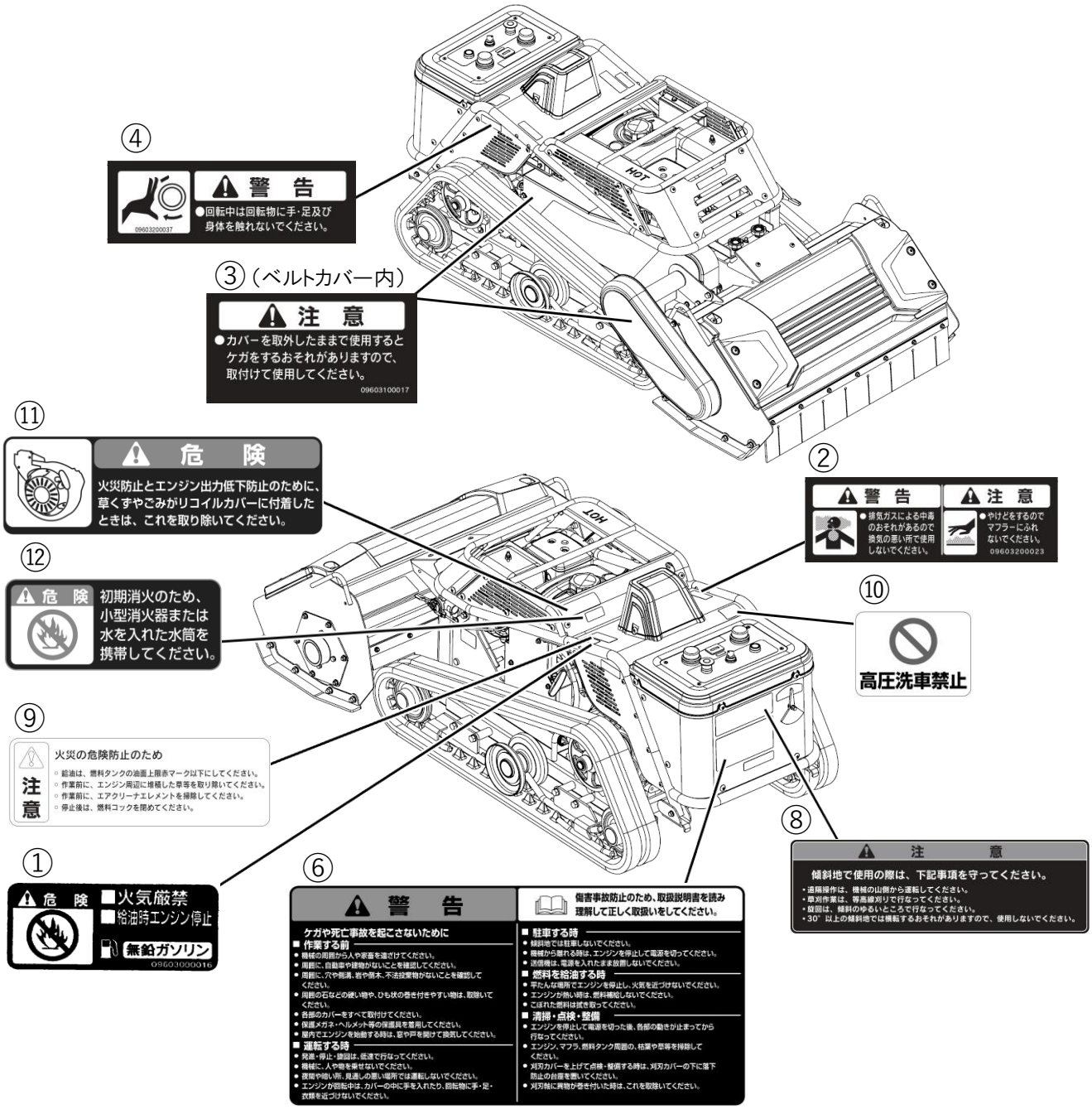
・廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しないでください。
・地面へのたれ流しや、河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
・排油・ゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。

1. 安全に作業するために

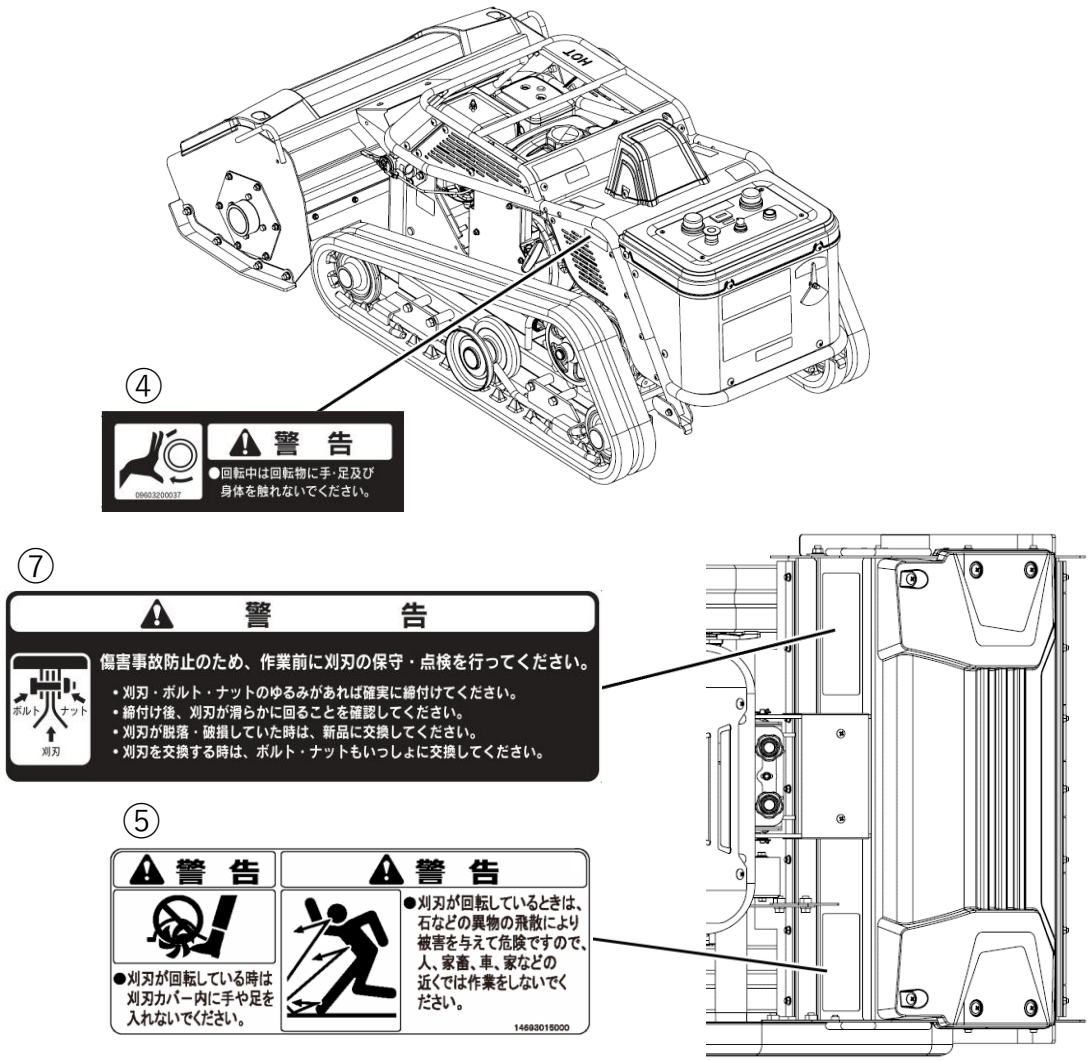
1-4 表示ラベルと貼付位置

この機械には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また、機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合や、ラベルの貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを「お買い上げの販売店」に注文して購入し、貼り換えてください。



1. 安全に作業するために



No.	部品名称	部品番号	備考
①	キケンラベル(ガソリン)	0960 3000 016	
②	キケンラベル(ハイガス)	0960 3200 023	
③	チュウイラベル(カバー)	0960 3100 017	
④	ケイコクラベル(カイテン)	0960 3200 037	
⑤	ケイコクラベル	1469 3015 000	
⑥	ケイコクラベル	AR70 3711 000	
⑦	ケイコクラベル(カリハ)	AR70 3712 000	
⑧	チュウイラベル(ケイシャ)	AR70 3713 000	
⑨	チュウイラベル(キュウユ)	AR70 3715 000	
⑩	キンシラベル(センシャ)	AR70 3718 000	
⑪	キケンラベル(リコイル)	AR70 3726 000	
⑫	キケンラベル(カサイ)	AR70 3727 000	

2. サービスと保証について

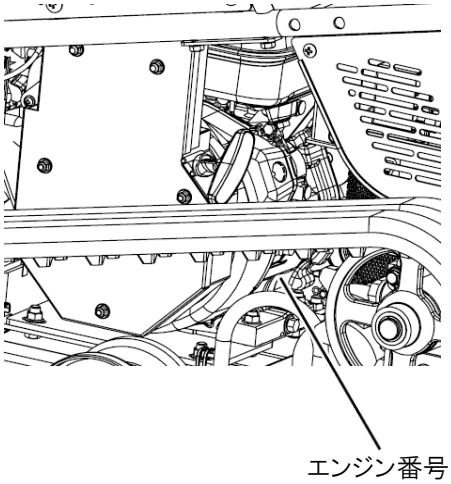
2-1 商品の保証

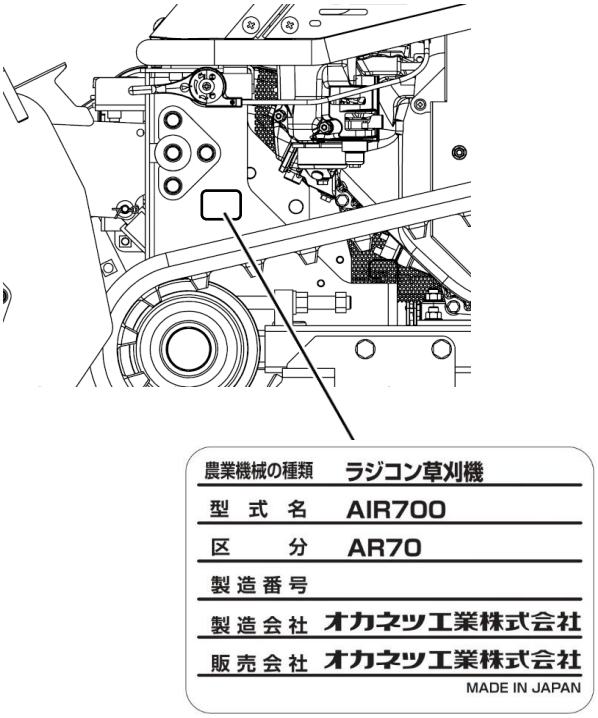
・本機には保証書が添付されておりますので、ご使用前によくお読みください。
（保証書は、取扱説明書の最終ページに印刷してあります）
・この製品の保証期間は新品購入から１年、もしくは累計50時間のうち、どちらか早く到達した方といたします。

2-2 ご相談窓口

・この製品のサービスについてのお問い合わせや部品等をご用命のときは、「お買い上げの販売店」にご相談ください。その際「型式名」・「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」をお知らせください。

2-3 表示ラベルの位置





2-4 補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であってもっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

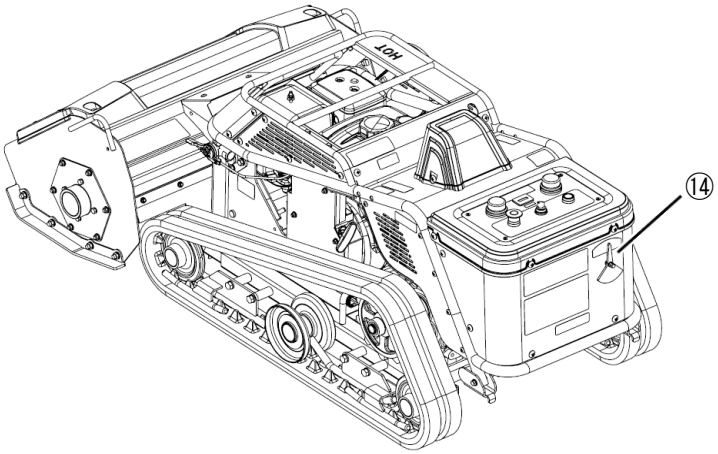
警　告

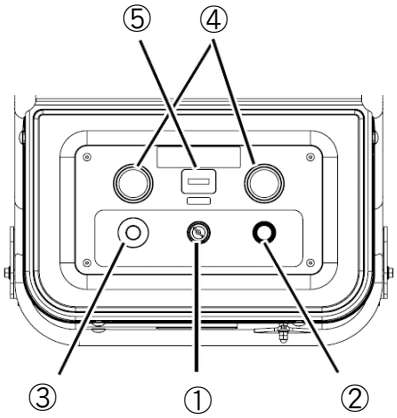
◆本機を使用目的外の作業に使用したり、性能を超える作業には使用しないでください。
◆機械は改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。
◆改造した場合や取扱説明書に記載されている使いかたと異なる場合は、保証の対象外になりますのでご注意ください。

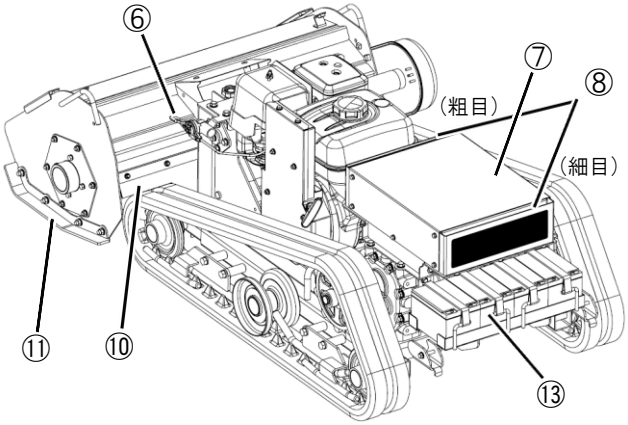
3. 各部の名称とはたらき

3-1 各部の名称(本機)

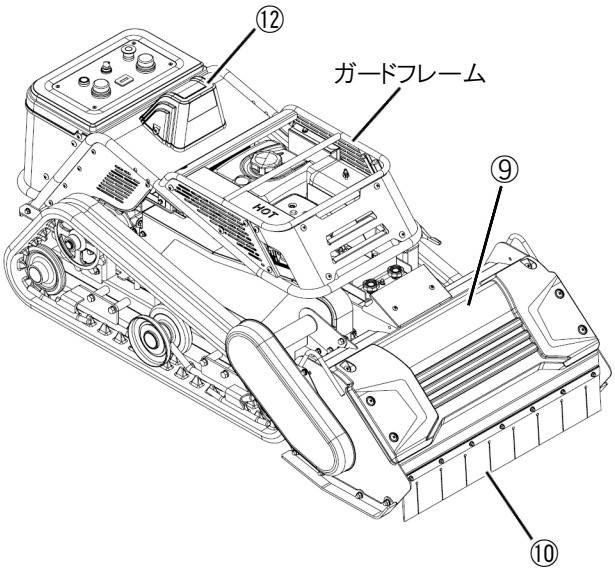
①キースイッチ　　・・・本機の運転と停止を切替えます。
②エンジンスイッチ(緑)・・・エンジンの稼働と停止を切替えます。
③非常停止スイッチ(赤)・・・押すと「停止」位置になりエンジンと電源の両方を停止させます。
④表示ランプ　　・・・機械の状態を表示します。
⑤アワーメータ　　・・・機械に通電した積算時間を表示します。
⑥スロットルレバー　　・・・エンジン回転数の増減を行ないます。
⑦電装ボックス　　・・・機械の制御基板等が入っています。
⑧フィルタ(細目・粗目)・・・電装ボックス内へのごみ等の進入を防ぎます。
⑨刈刃カバー　　・・・刈刃が直接人や動物に触れるのを防ぎます。
⑩飛散防止カバー　　・・・石等の異物の直接飛散を抑えます。
⑪スキッド　　・・・刈刃カバーが地面に食い込むのを防ぎます。
⑫ヘッドカバー　　・・・受信機やアンテナ等が入っています。
⑬バッテリ　　・・・機械のすべての電装品に電力を供給します。
⑭簡易傾斜計　　・・・機体の参考程度の傾斜角度を示します。







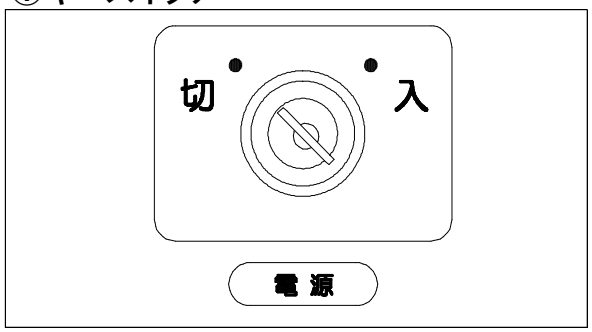
(ガードフレームを外した状態)



3. 各部の名称とはたらき

3-2 各部のはたらき(本機)

①キースイッチ



●本機の運転と停止を切替えます。送信機の電源を入れた後に入れます。

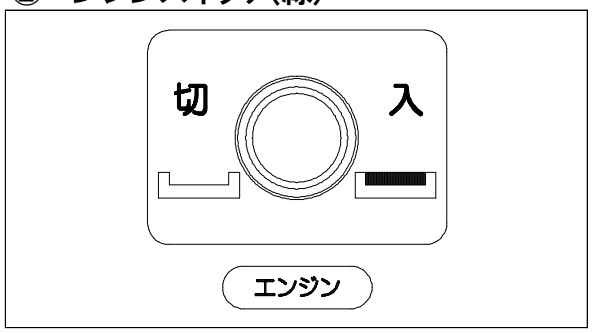
「ON」… 本機の各電装品の電源が入ります。送信機との通信が可能になります。

「OFF」… 本機の各電装品の電源が切れます。送信機との通信が切れます。

注 意

◆機械を使用しないときは必ずキーを抜いて安全な場所にキーを保管してください。
◆電源ONは必ず送信機から行なってください。本機の誤動作の恐れがあります。

②エンジンスイッチ(緑)

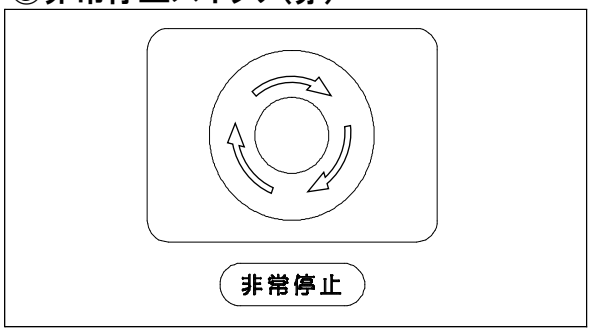


●エンジンの稼働と停止を切替えます。

「ON」(凸)… エンジンが稼働状態になります。手動でエンジンを始動しください。

「OFF」(凹)… エンジンが停止状態になります。エンジンが停止したことを確認したら、スイッチを「ON」に戻してください。

③非常停止スイッチ(赤)



●押すと「停止」位置になりエンジンと電源の両方を停止させます。「運転」位置にするときは右に回します。

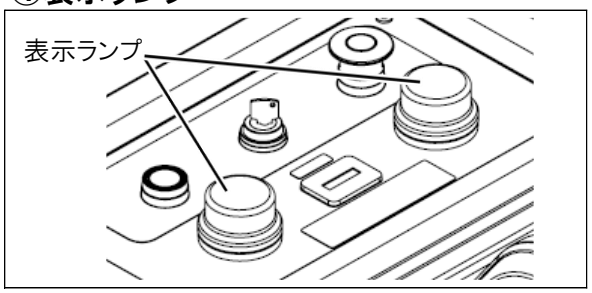
「停止」… エンジンが停止します。
各電装品の電源が切れます。
キースイッチの操作が無効になります。エンジンスイッチの操作が無効になります。

「運転」… キースイッチの操作が有効になります。エンジンスイッチの操作が有効になります。

注 意

◆非常時以外は機械のキースイッチを切ってから送信機の電源を切ってください。

④表示ランプ

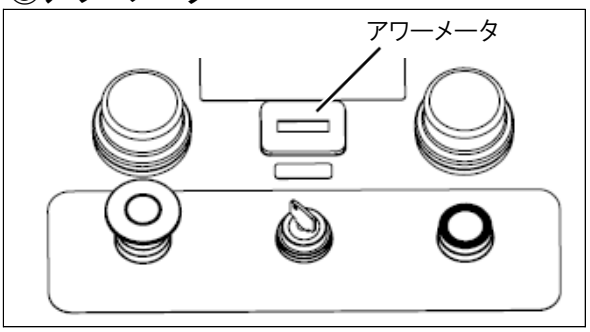


●機械の状態を表示します。表示ランプは2つ付いていますが、両方とも同じ点灯のしかたをします。

表示ランプ	状　態
点灯なし	電源OFF状態
青色点滅	電源ON状態
黄色点滅	刈刃クラッチスイッチON状態
紫色点滅	バッテリ電圧低下

3. 各部の名称とはたらき

⑤アワーメータ

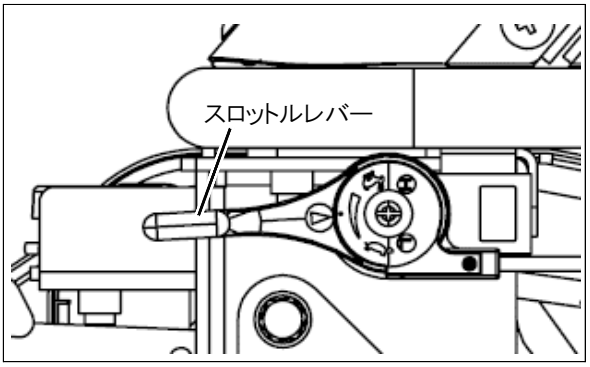


●機械に通電した積算時間を表示します。
積算時間の最後尾は1/10時間を表示します。

重　要

◆表示させるには、キースイッチを「ON」にしてください。

⑥スロットルレバー



●エンジン回転数の増減を行ないます。エンジン始動後はスロットルレバーを<<高>>位置にしてください。

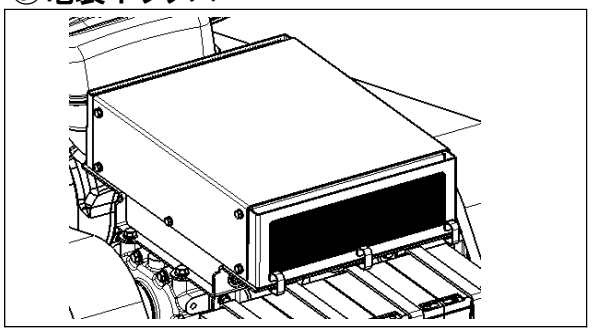
⚠ 注　意

◆エンジンを始動するときは、刈刃クラッチスイッチをOFFにしてください。

重　要

◆バッテリを充電するために、スロットルレバーの<<高>>位置で使用してください。
◆スロットルレバーを<<高>>へ回したとき、強い抵抗を感じたらレバーを止めてください。ワイヤが外れてエンジン回転数が操作できなくなるおそれがあります。

⑦電装ボックス

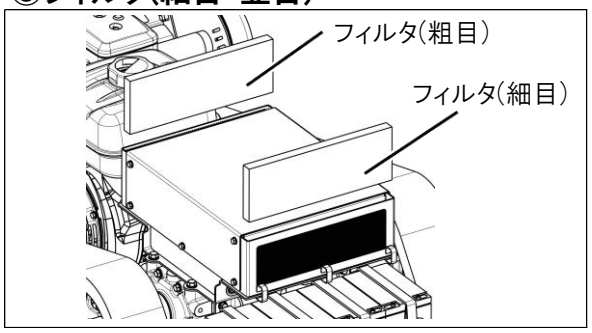


●機械の制御基板が入っています。

重　要

◆電装ボックスは非防水性です。故障の原因になりますので水をかけないでください。
◆ふたをあけたり分解すると保証や修理ができなくなります。

⑧フィルタ(細目・並目)



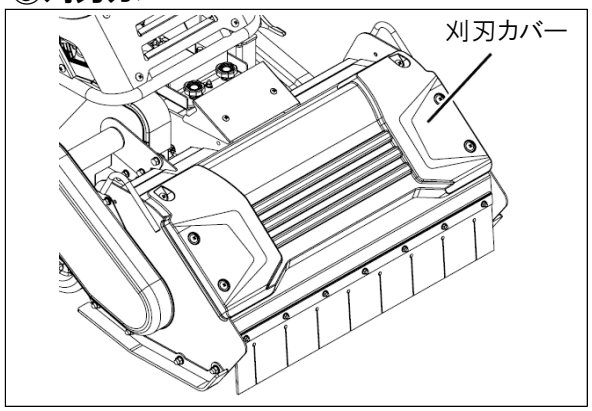
●電装ボックス内へのごみ等の進入を防ぎます。こまめに清掃をしてください。

重　要

◆フィルタを清掃するときは電装ボックスから外して行なってください。
◆清掃をしないと基板が過熱して故障の原因になります。
◆バッテリ側にフィルタ(細目)を差込んでください。
◆フィルタの目づまりや汚れがひどい場合は、フィルタを交換してください。

3. 各部の名称とはたらき

⑨刈刃カバー

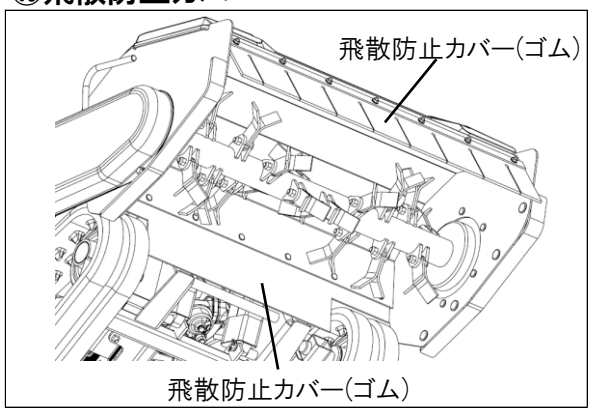


●刈刃が直接人や動物に触れるのを防ぎます。内側に泥や草が堆積しているときは掃除してください。

重　要

◆清掃をしないとうまく刈ることが出来なかったり、機械に無理な負荷がかかり、故障の原因になります。

⑩飛散防止カバー

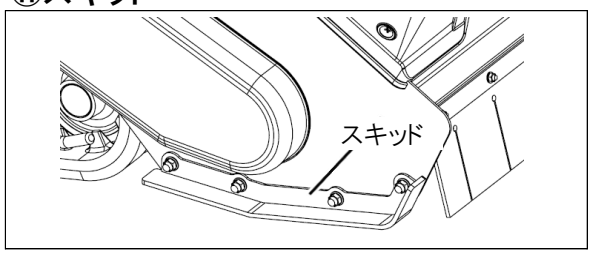


●石等の異物の直接飛散を抑えます。異常があれば交換してください。

⚠ 警　告

◆やぶれや変形があると異物が飛散して危険ですので交換してください。

⑪スキッド

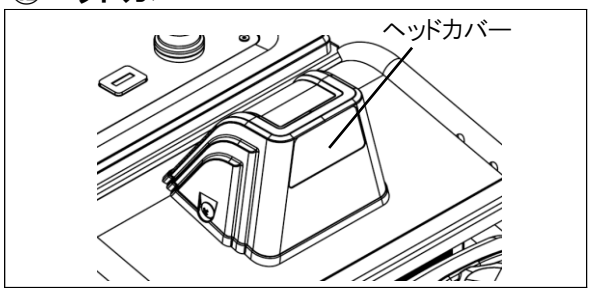


●刈刃カバーが地面に食い込むのを防ぎます。

重　要

◆著しく摩耗した場合は交換してください。

⑫ヘッドカバー

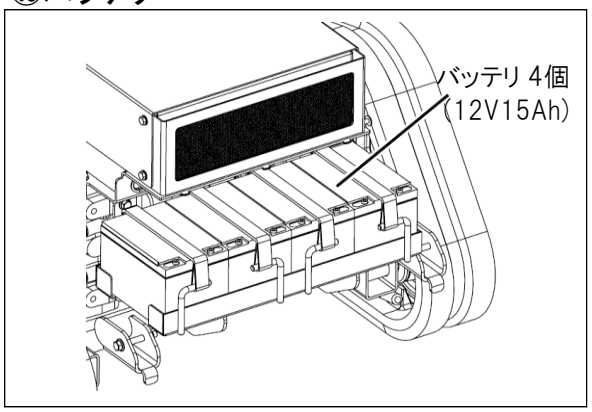


●受信機やアンテナ等が入っています。

重　要

◆受信機やアンテナは非防水性です。故障の原因になりますので水をかけないでください。

⑬バッテリ



●機械のすべての電装品に電力を供給します。短時間であればエンジンが停止したままでも自走できますが、バッテリの性能は著しく低下します。

重　要

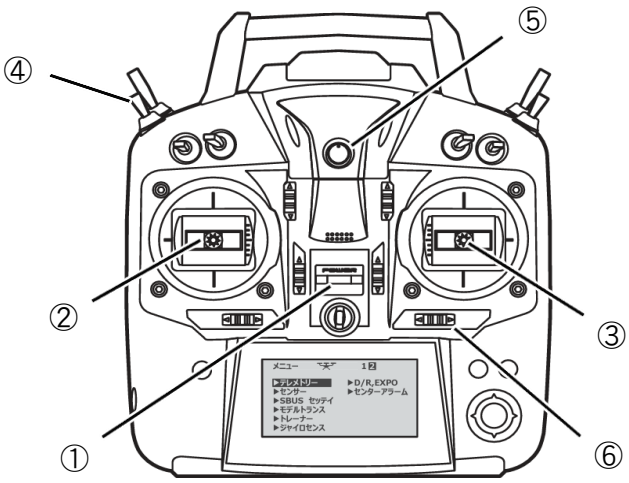
◆バッテリを充電するためにスロットルレバーを<<高>>位置にしてください。
◆自動車への積み降ろしやガソリン切れ等の異常時以外は、エンジンを稼働して充電してください。

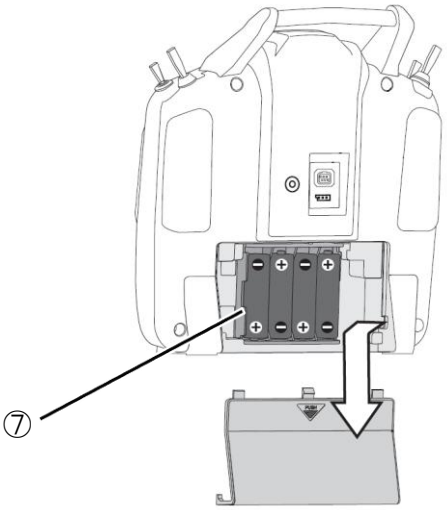
3. 各部の名称とはたらき

3-3 各部の名称(送信機)

①電源スイッチ・・・送信機の電源スイッチです。
②左スティック(前後)・・・機械を前後進させるスティックです。
③右スティック(左右)・・・機械を左右に旋回させるスティックです。
④刈刃クラッチスイッチ・・・エンジン動力を刈刃へ断続するスイッチです。
⑤刈高調整ダイヤル・・・刈高さを調整するダイヤルです。
⑥右トリムスイッチ・・・直進性が良くない場合、微調整できます。
⑦バッテリ　・・・送信機の電源です(単三電池４本)。

※送信機の詳しいご説明は、「Futaba T10J 取扱説明書」をお読みください。



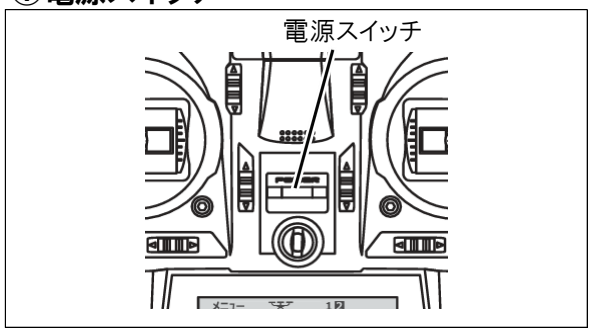


（ウラ側）

3. 各部の名称とはたらき

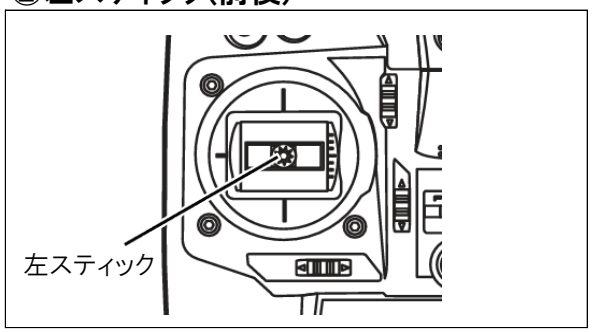
3-4 各部のはたらき(送信機)

①電源スイッチ



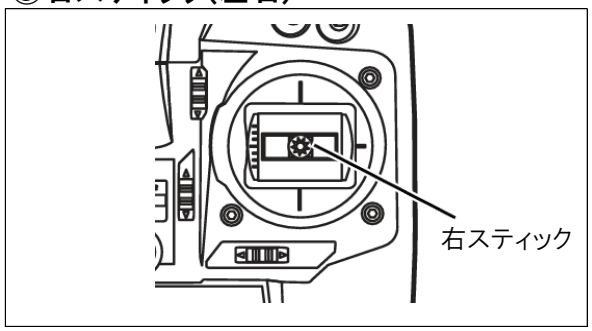
●送信機の電源スイッチです。機械の電源より先に入れてください。

②左スティック(前後)



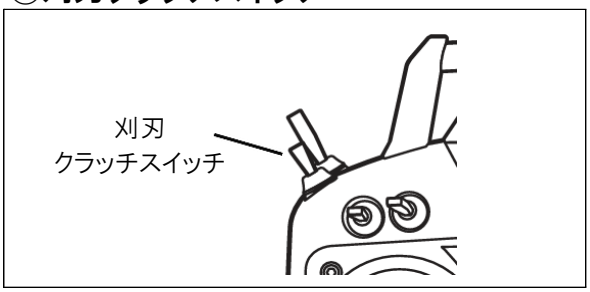
●機械を前後進させるスティックです。スティックを倒した角度で走行速度が調整できます。また、スティックから指を放すと中立に戻ります。

③右スティック(左右)



●機械を左右に旋回させるスティックです。スティックを倒した角度で旋回速度が調整できます。また、スティックから指を放すと中立に戻ります。

④刈刃クラッチスイッチ



●エンジン動力を刈刃へ断続するスイッチです。

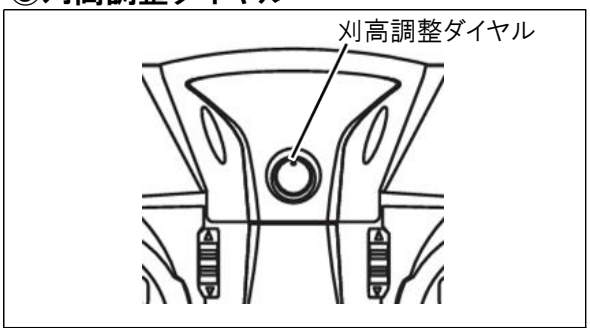
警　告

◆作業をしないときは刈刃クラッチスイッチをONにしないでください。

注　意

◆エンジンを始動するときは刈刃クラッチスイッチをOFFにしてください。

⑤刈高調整ダイヤル



●刈高さを調整するダイヤルです。
刈高さは　0～180mm調整できます。

・右回し・・・ 刈高さが上昇します

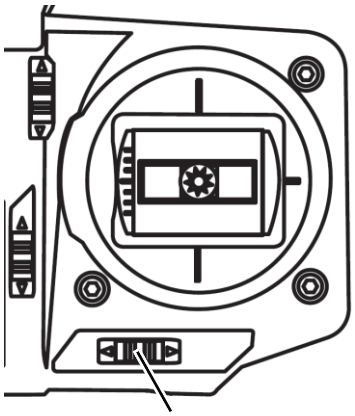
・左回し・・・ 刈高さが下降します

注　意

◆自動車への積込み・積降ろしは刈高さを最も高い位置にしてください。
◆運搬や駐車・停車するときは刈刃カバーを地面に接するまで下げてください。

3. 各部の名称とはたらき

⑥右トリムスイッチ

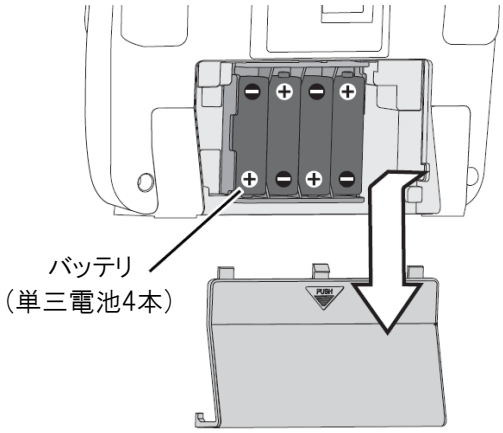


●直進性を微調整するトリムスイッチです。

注 意

◆操作量が大きいと右スティック(左右)が中立でもゆっくり旋回してしまいます。右スティック(左右)が中立時に動かない範囲で調整してください。

⑦バッテリ



●送信機の電源です。
●消耗品ですので、電圧低下で送信機の電源が入らなくなる前に交換してください。
●消耗した乾電池はお住いの自治体の指示に従って処分してください。
●電池の取扱い、交換方法については、送信機の取扱説明書をご参照ください。

4. 作業前点検

4-1 作業前の点検

本機を調子よく安全に使用するには、本機の状態をよく知っておくことが大切です。
本機を使用する人が一日一回運転前に、「運転前の点検表」を参考に点検してください。
異常箇所があれば修理・交換をしてください。
また、運転中に異常を感じたら速やかに作業を中止して点検してください。

⚠ 危　険

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。また、オイル交換もしないでください。
◆燃料を補給するときは火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップを確実に閉め、こぼれたガソリンはきれいにふきとってください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。
◆屋内でエンジン始動するときは窓や戸を開けて換気を行ない、排気ガス中毒にならないようにしてください。

⚠ 警　告

◆点検・整備は平坦な場所でエンジンを停止してから電源を切り、クローラに輪止めをして各部の動きが止まってから行なってください。
◆点検・整備はモータやエンジン等の高温部が完全に冷えてから行なってください。
◆点検・整備は広くて明るい場所で行なってください。
◆点検・整備は適正な道具・工具で正しく使用して行なってください。
◆取外したカバー等はすべて取付けてからエンジンを始動してください。

【運転前の点検表】

点検箇所			処置
運転前に	エンジンオイル	・規定量入っていますか。 ・汚れていませんか。	・補給/交換する。 29ページ 7-3参照
	燃料カップ	・水やごみがたまっていませんか。	・掃除する。 31ページ 7-6参照
	燃料タンク	・作業に必要な燃料は入っていますか。	・補給する。 29ページ 7-2参照
	エアクリーナ	・エレメントは汚れていませんか。	・掃除する。 30ページ 7-5参照
	リコイルカバー	・吸気口の目詰まりはありませんか。	・掃除する。 31ページ 7-8参照
	燃料ホース	・傷や、燃料もれはありませんか。 ・劣化していませんか。 ・継手部のクランプはゆるんでいませんか。	・ホースを交換する。 ・クランプを固定する。 31ページ 7-9参照
	エンジン、マフラ、燃料タンク周囲	・草くずやごみがたまっていませんか。	・掃除する。

4. 作業前点検

【運転前の点検表】

点検箇所			処置
運転前に	電気配線やバッテリ周囲	・草くずやごみがたまっていませんか。	・掃除する。 35ページ 7-18参照
	電装ボックス	・フィルタは汚れていませんか。	・掃除する。 35ページ 7-17参照
	刈刃	・刈刃は確実に固定されていますか。 ・刈刃が破損や脱落はありませんか。	・取付部を締付ける。 ・交換する。 34ページ 7-13参照
	刈刃カバー	・草や泥等がたまっていませんか。	・掃除する。 34ページ 7-14参照
	飛散防止カバー	・やぶれや変形はありませんか。	・交換する。 34ページ 7-15参照
	バッテリの点検(本機)	・バッテリに傷や異常なふくらみはありませんか。	・交換する。 35ページ 7-16参照
	バッテリの点検(送信機)	・バッテリ残量は十分ですか。	・交換する。 30ページ 3-4参照
エンジン始動後	左スティック(前後)	・機体は前後進していますか。	30ページ 3-4参照
	右スティック(左右)	・機体は旋回していますか。	30ページ 3-4参照
	刈刃クラッチスイッチ	・刈刃クラッチの「ON」「OFF」は操作できていますか。	30ページ 3-4参照
	刈高調整ダイヤル	・刈刃部は昇降していますか。	30ページ 3-4参照
	スロットルレバー	・ゆっくりとレバー操作したとき、正常に作動していますか。	・調整する。 32ページ 7-10参照
	キースイッチ	・キースイッチを操作したとき、電源は切れていますか。	10ページ 3-2参照
	エンジンスイッチ(緑)	・エンジンスイッチを操作したとき、エンジンが停止しますか。	10ページ 3-2参照
	非常停止スイッチ(赤)	・非常停止スイッチを操作したとき、エンジンが停止して電源は切れていますか。	10ページ 3-2参照
	表示ランプ	・所定の操作を行ったとき、指定された表示色になっていますか。	10ページ 3-2参照

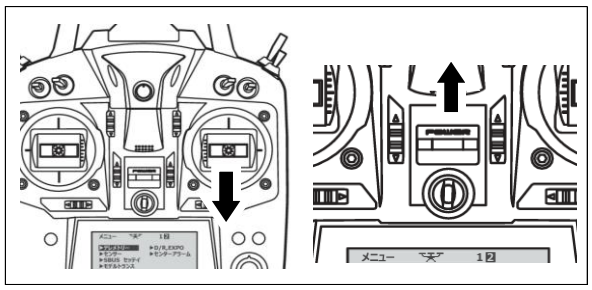
●前回の作業で異常があった箇所は、必ず点検・整備をしてください。

5. 運転と作業のしかた

◆機械を平坦な場所に置き、マフラ付近の燃えやすいものは取除いてください。
◆マフラ排気口付近に燃えやすいものを置かないでください。
◆マフラやエンジンには冷えるまで触れないでください。熱いときに触れると「やけど」することがあります。
◆点検で取外したカバー等はすべて取付けてください。
◆屋内やハウスでの始動は窓や戸を開けて換気を行ない、排気ガス中毒にならないようにしてください。
◆リコイルスタータグリップを引くときはプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

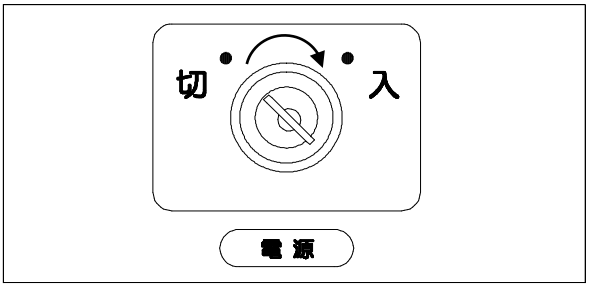
5-1 エンジン始動のしかた

●右スティックを下に下げたまま電源を入れます。



※スティックを下げずに電源を入れた場合はアラームが鳴りますが、スティックを下げると解除されます。

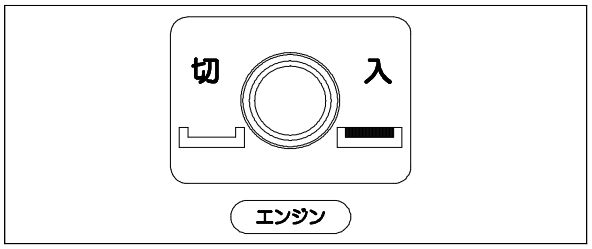
●本機の電源を入れます。
（キーを差込んで右に回します。）



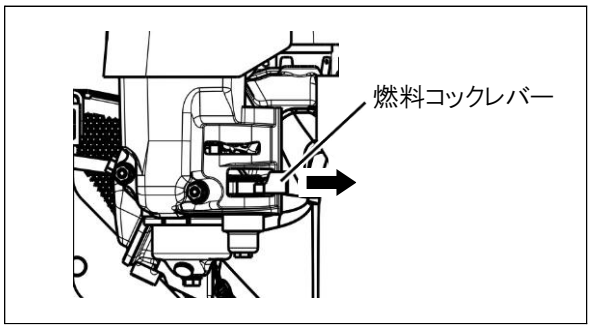
重　要

◆電源ONは必ず送信機から行なってください。本機の誤動作の恐れがあります。

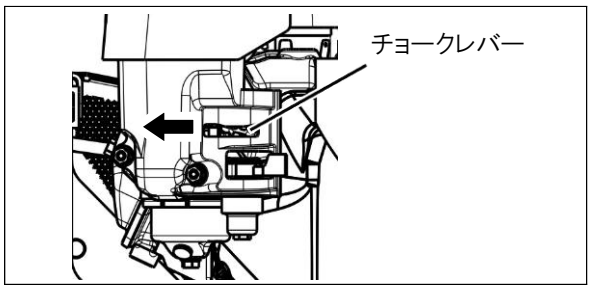
●エンジンスイッチを<<運転>>位置にします。（中央を押して凸にします。）



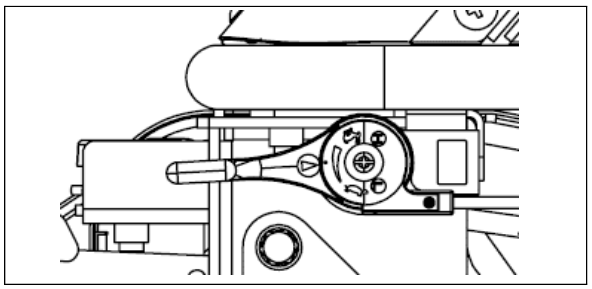
●燃料コックレバーを<<開>>位置にします。



●チョークレバーを<<閉>>位置にします。
エンジンがよく暖まっているときはチョークレバーの操作は不要です。

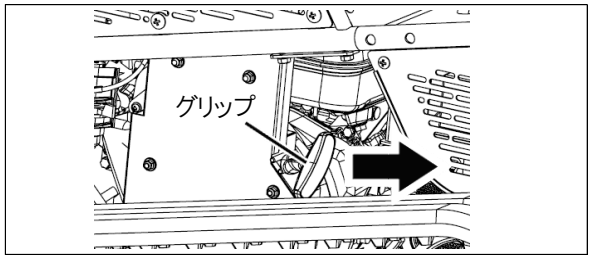


●スロットルレバーを<<低>>と<<高>>の中間にします。



5. 運転と作業のしかた

●リコイルスタータグリップを握って勢いよく引張ります。



注　意

◆リコイルスタータグリップを引張る方向に障害物がないか確認してください。
◆リコイルスタータグリップを引張るとき、マフラに手を触れないでください。
◆エンジンスイッチが<<入>>であることを確認してください。

重　要

◆リコイルカバーに草くずが堆積しているときは、これを取除いてください。
◆クローラに草が巻き付いていたり草くずが堆積しているときは、これを取除いてください。

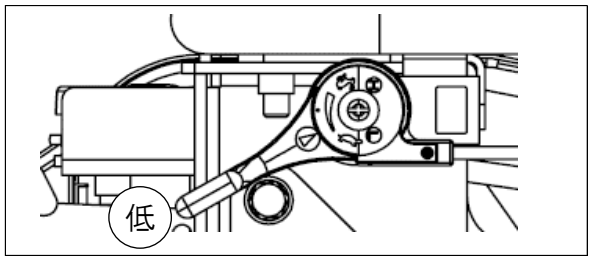
●エンジンの様子を見ながら約５分間暖機運転をしてください。
●暖機運転が終わったらスロットルレバーを<<高>>位置にしてください。

重　要

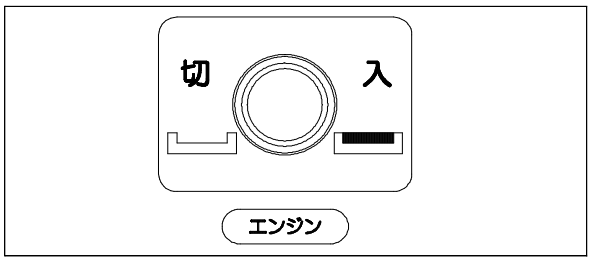
◆バッテリを充電するために、スロットルレバーを<<高>>位置にしてください。

5-2 エンジン停止のしかた

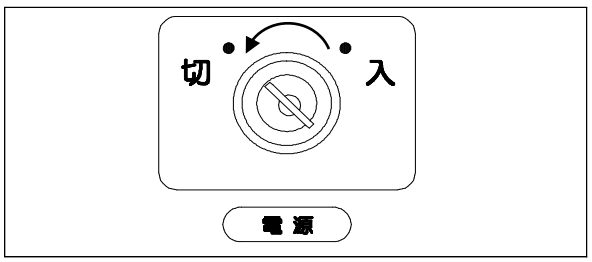
●スロットルレバーを<<低>>の位置にします。



●エンジンスイッチを<<停止>>位置にします。エンジンが停止したのを確認したらエンジンスイッチを<<運転>>に戻します。



●本機の電源を切ります。



警　告

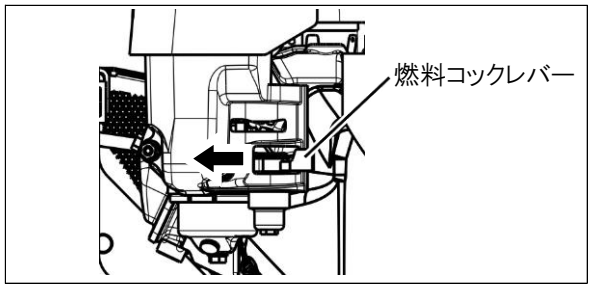
◆燃えやすいものの近くには止めないでください。
◆本機は平坦で硬い場所を選んで止めてください。
◆本機は駐車ブレーキを装備しておりませんので、傾斜地では駐車・停車しないでください。やむをえず止めるときはクローラに輪止めをしてください。
◆刈刃カバーは地面に接するまで下げてください。
◆本機から離れるときは平坦で硬い場所に止め、エンジンを停止してから電源を切ってください。

重　要

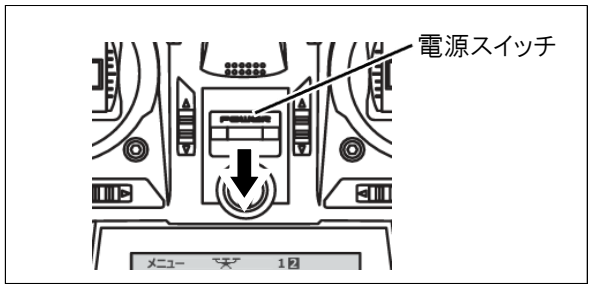
◆エンジンを停止するときは2～3分間低回転で冷却運転を行ない、エンジン温度を下げてから停止してください。
◆使用しないときやその場を離れるときは、キーを外して保管してください。

5. 運転と作業のしかた

●燃料コックレバーを<<閉>>位置にします。



●送信機の電源を切ります。



5-3 運転のしかた

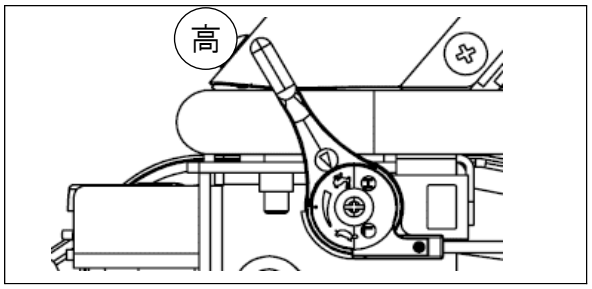
警　告

◆30°を超える傾斜地では運転しないでください。
◆夜間や暗い所、見通しの悪い場所では、運転しないでください。
◆雨天のときは運転しないでください。
◆段差のある路肩や水際では走行しないでください。
◆ぬかるみや水たまり等、水気の多い場所では走行しないでください。
◆道路交通法違反で罰せられることがありますので公道では走行しないでください。
◆刈刃を回転させたまま、走行しないでください。
◆急発進、急停車、急旋回はしないでください。
◆人や物を機械にのせないでください。
◆人や動物を機械に近づけないでください。
◆わき見運転をしないでください。
◆あぜや溝を横断するときはアユミ板を使用してください。

重　要

◆遠隔操作に慣れるまで平坦な場所で練習し習熟してから作業を行なってください。

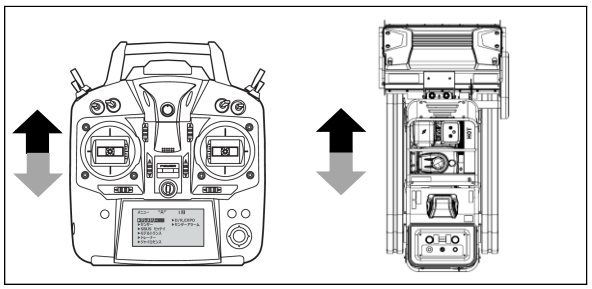
●スロットルレバーを<<高>>位置にします。



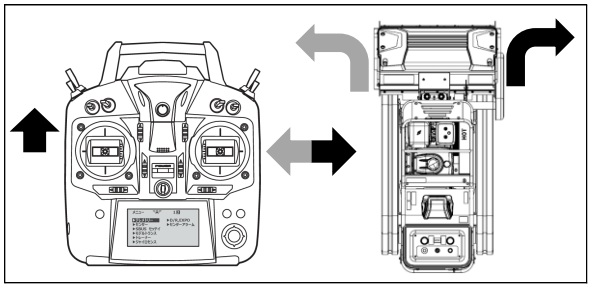
重　要

◆バッテリを充電するために、スロットルレバーの<<高>>位置で使用してください。
◆スロットルレバーを<<高>>へ回したとき、強い抵抗を感じたらレバーを止めてください。ワイヤが外れてエンジン回転が操作できなくなるおそれがあります。

●前後進するときは左スティック(前後)を前へ倒せば前進、後ろへ倒せば後進します。

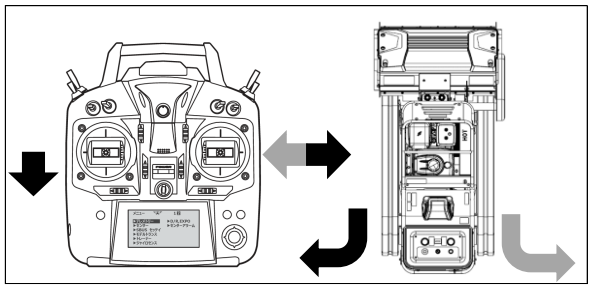


●前進しながら左右に進路変更するときは右スティック(左右)を左に倒せば左へ、右に倒せば右へ旋回します。

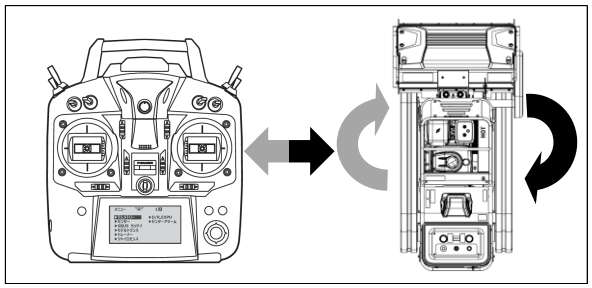


5. 運転と作業のしかた

●後進しながら左右に進路変更するときは右スティック(左右)を左に倒せば右へ、右に倒せば左へ旋回します。



●右スティック(左右)のみ操作したときは、その場で旋回します。



重　要

◆動作速度はスティックの操作量に比例します。
◆スティックを指で弾くような操作は本機を傷めます。
◆運転中はスティックから指を離さない様にして操作してください。

5-4 作業のしかた

⚠ 警　告

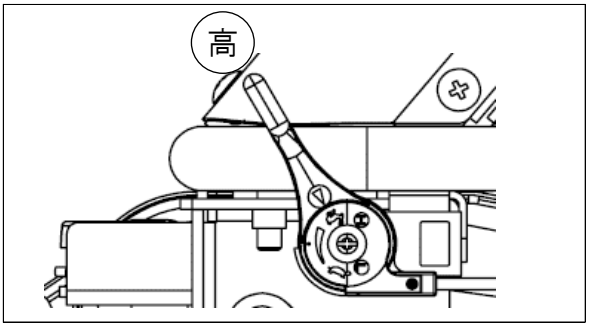
◆石等の異物の飛散により、人、動物、自動車、建物等に被害をあたえることがありますので、15m以上離れた場所で作業してください。
◆作業中は危険であることを説明した立札やロープを張る等して、15m以内に人が近づかないように注意しながら作業をしてください。
◆幼稚園、学校、公園等に隣接している作業場では危険ですので、人の出入りがなことを確認してから作業をしてください。
◆人が機体に近づいたときは作業を中止してください。
◆石等の硬いものや、ひも状の巻き付きやすいものは、事前に取除いてください。
◆側溝、軟弱地、凹凸地や見通しの悪い所には、目印のポール等を立て近づけないようにして注意しながら作業をしてください。
◆作業中は機械の前後に立たないでください。
◆30°を超える傾斜地では作業をしないでください。
◆転倒・転落したときは、本機の非常停止スイッチを押してエンジンと電源を停止してください。
◆傾斜地で作業するときは、作業者は機体の山側に立って運転してください。
◆傾斜地での作業は等高線刈りで行なってください。
◆旋回するときは、傾斜のゆるいところで行なってください。
◆作業中に障害物に接触したときは、速やかにエンジンを停止して電源を切ってから点検してください。
◆作業中に異常な振動や音が発生したときは速やかにエンジンを停止して電源を切ってから点検してください。
◆作業途中で点検するときは、高温部に手を触れないでください。
◆こまめにリコイルカバーに堆積した草くずを取除いてください。
◆刈刃カバーの堆積した草や泥等を取除くときは、エンジンを停止して電源を切ってから行なってください。
◆疲れを感じた無理に作業は続けず、休憩してください。
◆初期消火のため、付属の消火スプレーまたは小型消火器を携帯してください。
◆エアクリーナは、2時間おきに清掃してください。

5. 運転と作業のしかた

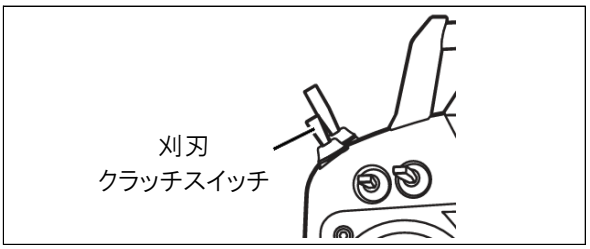
重　要

◆長い草やつる状の草は刈刃に巻き付いてうまく刈れないことがあります。
◆刈刃につる草が巻き付いたときは速やかにクラッチをOFFにしてエンジンを停止して電源を切ってから取除いてください。
◆ぬれた草を刈ると刈刃カバー内に草がたまりやすくなり機械に無理な負荷がかかりますので、草が乾くまで待って作業を開始するか、堆積した草くずをこまめに取除いてください。
◆機械に無理な負荷がかかるときは刈高を高くして2度刈りするか、刈幅を少なくする等して作業してください。

●スロットルレバーを<<高>>位置にします。

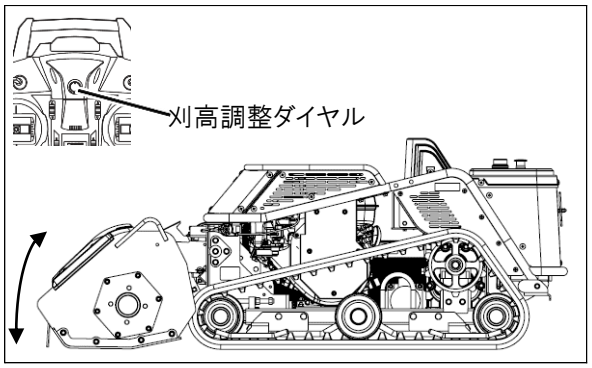


●刈刃クラッチスイッチをONにします。
（作業時の走行速度は2段階あります。）



刈刃スイッチ位置	クラッチ	走行速度
奥	OFF	100%
中間	ON	50%
手前	ON	80%

●刈高調整ダイヤルを回して適切な刈高さに調整します。
（0～180mmまで調整できます）



●走行スティックを操作して作業してください。（20ページ 5-3参照）
●作業が終了したら刈刃クラッチスイッチをOFFにします。

5-5 駐車・停車のしかた

警　告

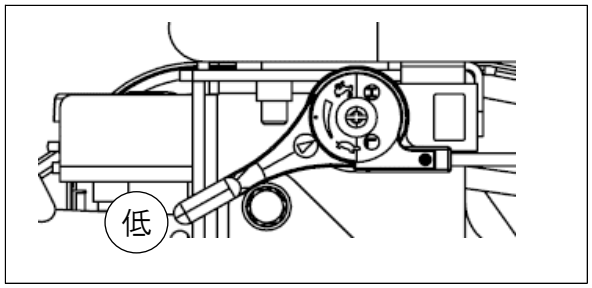
◆燃えやすいものの近くには止めないでください。
◆本機は平坦で硬い場所を選んで止めてください。
◆本機は駐車ブレーキを装備しておりませんので、傾斜地では駐車・停車しないでください。やむをえず止めるときは、クローラに輪止めをしてください。
◆刈刃カバーが地面に接するまで下げてください。
◆本機から離れるときは平坦で硬い場所に止め、エンジンを停止して電源を切ってください。

重　要

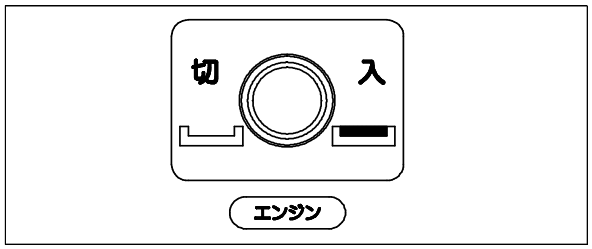
◆エンジンを停止するときは2～3分間低回転で冷却運転を行ない、エンジン温度を下げてから停止してください。
◆使用しないときやその場を離れるときは、キーを外して保管してください。

5. 運転と作業のしかた

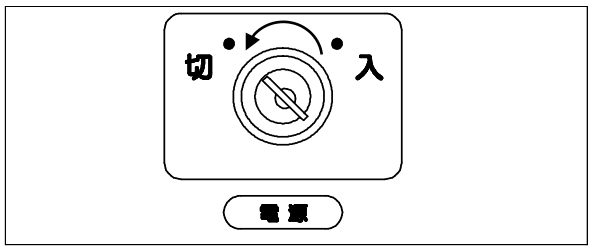
●スロットルレバーを<<低>>位置にします。



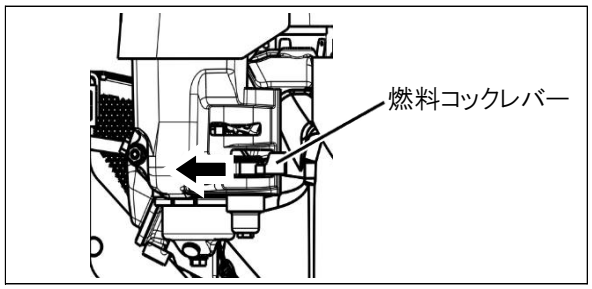
●エンジンスイッチを<<停止>>位置にします。エンジンが停止したのを確認したらエンジンスイッチを<<運転>>に戻します。



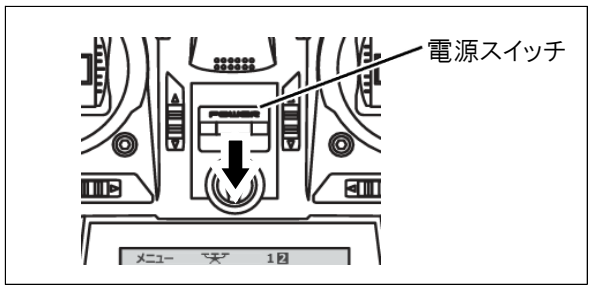
●本機の電源を切ります。



●燃料コックレバーを<<閉>>位置にします。



●送信機の電源を切ります。



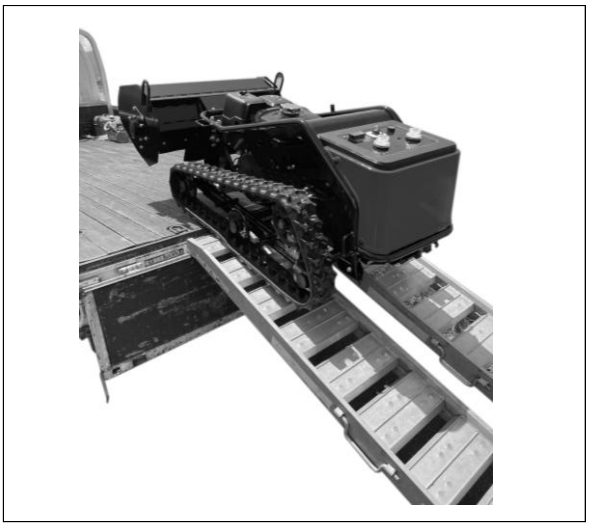
5-6 自動車への積込み・積降ろし

●自動車への積込み・積降ろしは、まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して行ないます。

警　告

◆本機の運搬に適した自動車を使用してください。
◆自動車は荷台に天井がない車を使用してください。
◆アユミ板が傾いたりしない平坦で硬い場所を選び、自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、タイヤに輪止めをしてください。
◆アユミ板は自動車の荷台高さの4倍以上の長さ、機械の重量に耐えられる強度と幅があり、すべり止め・フック付きのものを使用してください。
◆アユミ板のフックは段差のないように平行にかけ、はずれないことを確認して行なってください。
◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また、本機の周囲に人を近づけないでください。
◆積込み・積降ろしのときは刈刃部を最も高い位置まで上げ、刈刃がアユミ板に引っかからないようにしてください。
◆刈刃を回転させたまま積込み・積降ろしはしないでください。
◆積込み・積降ろしは低速で行なってください。
◆積込み・積降ろし中はアユミ板の上では方向転換しないでください。
◆本機の前後には立たないでください。
◆本機がアユミ板と荷台の継ぎ目を越えるときに急に重心が変わりますので、十分注意してください。
◆刈刃カバーが荷台床に接するまで下げてください。
◆運搬時はロープ等で機体を固定してください。

5. 運転と作業のしかた



●スロットルレバーを<<高>>位置にして刈刃クラッチスイッチをOFFにします。
●刈刃がアユミ板に引っかからないよう、刈刃部を最も高い位置まで上げます。
●積込み・積降ろしは低速で行なってください。
●自動車への積込みが終わったらスロットルレバーを<<低>>位置にし、エンジンを停止して電源を切ります。

6. 作業後の手入れのしかた

危　険

◆エレメントやフィルタの洗浄にガソリンを使用しないでください。

警　告

◆機械を平坦で硬い場所に止め、エンジンを停止して電源を切った状態で行なってください。

注　意

◆モータやエンジン等の高温部が完全に冷えてから行なってください。

重　要

◆高圧洗浄機は故障の原因になりますので、使用しないでください。
◆電装品やエンジンまわりの電気配線部やエアクリーナには水をかけないでください。

6-1 作業後の手入れ

●使用後は泥や草くずを取除き、水洗いしてから乾いた布で水分を拭き取ります。
●塗装がはげた箇所には補修塗料を塗り、機体の錆びやすい箇所にはグリスかオイルを塗布します。
●回転部・摺動部・ワイヤ等には錆びないよう注油します。

6-2 エンジン回りの清掃

●マフラ周辺に堆積した草くずを取除いてください。
●リコイルカバーに堆積した草くずを取除いてください。

6-3 エアクリーナの清掃

●エアクリーナカバーを外してエレメントに付着したごみを取除きます。

6-4 フィルタの清掃

●電装ボックスからフィルタを外して、軽くたたいて汚れを落としてください。

6-5 クローラの清掃

●クローラに巻き付いた草や堆積した草くずを取除いてください。

6-6 刈刃の清掃

●刈刃カバーに堆積した草や泥等を取除いてください。
●刈刃に巻き付いたつる草等を取除いてください。

7. 定期点検・整備のしかた

⚠ 危　険

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。また、オイル交換もしないでください。
◆燃料を補給するときは火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップを確実に閉め、こぼれたガソリンはきれいにふきとってください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。
◆屋内でエンジン始動するときは窓や戸を開けて換気を行ない、排気ガス中毒にならないようにしてください。

⚠ 警　告

◆点検・整備は平坦な場所でエンジンを停止してから電源を切り、クローラに輪止めをして各部の動きが止まってから行なってください。
◆点検・整備はモータやエンジン等の高温部が完全に冷えてから行なってください。
◆点検・整備は広くて明るい場所で行なってください。
◆点検・整備は適正な道具・工具で正しく使用して行なってください。
◆取外したカバー等はすべて取付けてからエンジンを始動してください。

7-1 定期点検整備

●正常な機能を発揮し、いつでも安全な状態であるように「定期点検整備表」にしたがって定期的に点検し、必要により清掃・調整・整備を行ってください。

【定期点検整備表】　○点検 / ●交換

点検・整備項目	点検間隔				処置
	作業前	20時間目	50時間毎	格納時	
エンジンオイル	必要に応じて補充				29ページ 7-3参照
	○	●	●	○	
エアクリーナ	必要に応じて交換				30ページ 7-5参照
	○		○	○	
燃料カップ	必要に応じて交換				31ページ 7-6参照
	○		○	○	
燃料タンクの燃料	必要に応じて補充				29ページ 7-2参照
	○		○	抜取り	
燃料ホースの劣化と燃料もれ	2年毎、または必要に応じて交換				29ページ 7-9参照
	○			○	
気化器の燃料					31ページ 7-6参照
				抜取り	
点火プラグ	必要に応じて交換				31ページ 7-7参照
			○	○	
リコイルカバーの清掃					31ページ 7-8参照
	○			○	

7. 定期点検・整備のしかた

【定期点検整備表】　○点検 / ●交換

点検・整備項目	点検間隔				処置
	作業前	20時間目	50時間毎	格納時	
ミッションオイル	必要に応じて補充				30ページ 7-4参照
		●	●	○	
グリスアップ					-
			○	注油	
電気配線	必要に応じて交換				35ページ 7-18参照
			○	○	
Vベルト	作業前点検、必要に応じて交換				33ページ 7-12参照
	○		○	○	
ボルト・ナットのゆるみ	作業前点検、必要に応じて交換				-
			○	○	
クローラ	必要に応じて交換				32ページ 7-11参照
			○	○	
刈刃の摩耗・破損・脱落	作業前点検、必要に応じて交換				34ページ 7-13参照
	○		○	○	
刈刃カバーの清掃					34ページ 7-14参照
	○			○	
飛散防止カバー	作業前点検、必要に応じて交換				34ページ 7-15参照
	○			○	
電装ボックスのフィルタ	必要に応じて交換				35ページ 7-17参照
	○		○	○	
エンジン周囲の清掃					-
	○			○	
バッテリ					35ページ 7-16参照
	○			○	

7. 定期点検・整備のしかた

【給油・油脂表】

種類	分類		容量(L)	備考
	API サ-ビス分類	SAE 粘度番号		
自動車用無鉛ガソリン			4.1	作業前点検(必要量補給)
エンジンオイル	SJ級以上	10W-30	1.1	初回20時間目に交換 以降は、50時間毎に交換
ギヤオイル	GL-4級以上	80W	0.6	初回20時間目に交換 以降は、50時間毎に交換
グリス			適量	

使用済みの廃棄物の処理について
廃棄物をみだらに捨てたり、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
・機械から廃液を抜くときは、容器に受けてください。
・地面のたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
・排油、燃料、冷却水(不凍液)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他有機物を廃棄、または焼却するときは、「お買い上げの販売店」、または産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。

7. 定期点検・整備のしかた

7-2 燃料の点検と補給

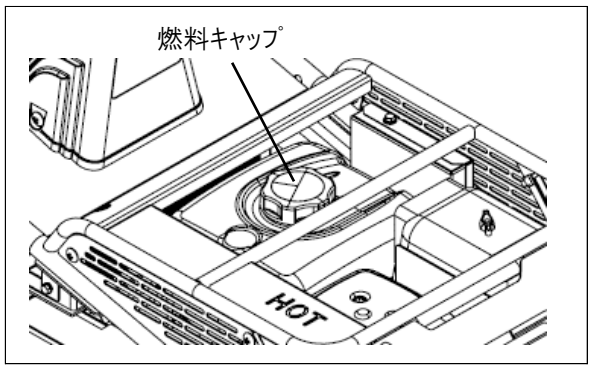
⚠ 危　険

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは、点検や補給をしないでください。
◆燃料給油時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ、こぼれたガソリンはきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や、傷によるもれ等があると火災の原因になります。傷やもれがあれば交換してください。

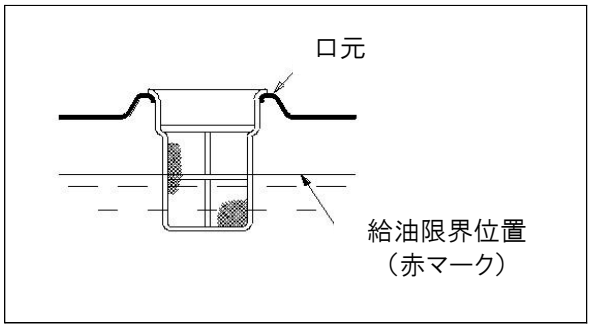
重　要

◆燃料はフィルタを通して、ごみや水が混入しないよう補給してください。
◆燃料の補給は、燃料タンクの油面上限赤マーク以下にしてください。
◆急傾斜地で使用するときは給油限界位置をさらに低くしてください。
◆燃料が少なくなったら早めに燃料を補給してください。
◆燃料補給後、燃料キャップを確実に締付けてください。

●燃料キャップを外して、残量が少ないようでしたら燃料を補給してください。



●燃料の補給は燃料タンクの給油限界位置（赤マーク）以下にしてください。
●多く入れすぎたときは、赤マーク以下になるよう抜き取ってください。



・燃料…自動車用無鉛ガソリン
・タンク容量…4.1L

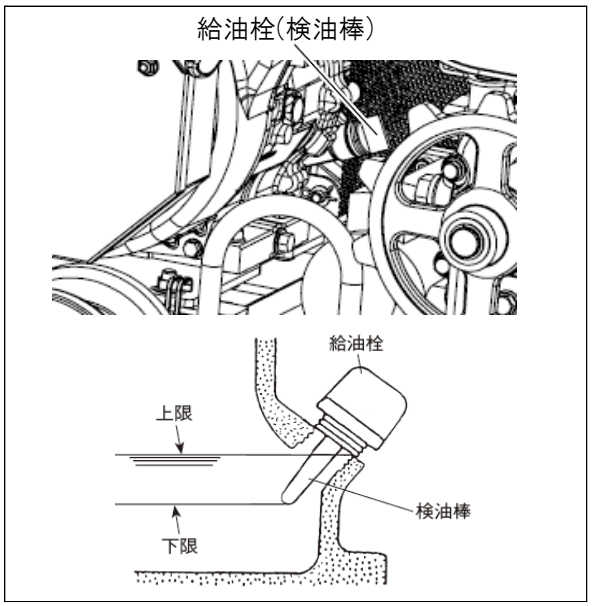
7-3 エンジンオイルの点検と交換

⚠ 危　険

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは、オイルの点検や交換をしないでください。

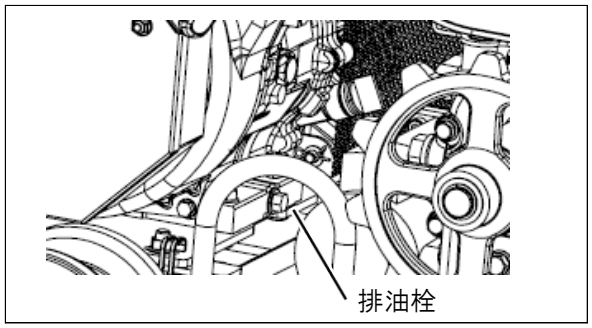
①エンジンオイルの点検

●エンジンが水平になる場所に止め、給油栓を外し検油棒の面をきれいにふき取ってから差込みます。（ねじ込まない）
●検油棒の間に油面があるか確認し、不足していたときは上限まで補給します。



②エンジンオイルの交換

●排油栓を外してオイルを抜きます。
●オイルが完全に抜けたら新しいオイルを規定量(上限)給油します。



・オイル…ガソリンエンジン用オイル
API・SJ級以上、SAE・10W-30
・オイル量…1.1L

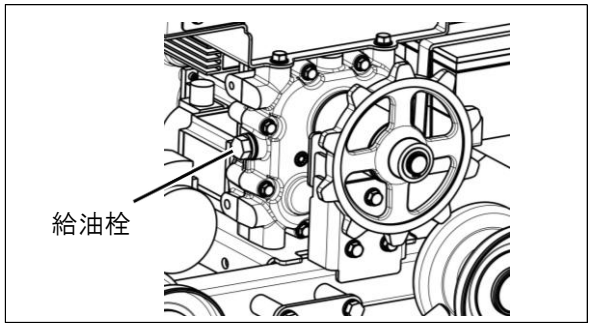
7-4 ミッションオイルの点検と交換

危　険

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは、オイルの点検や交換をしないでください。

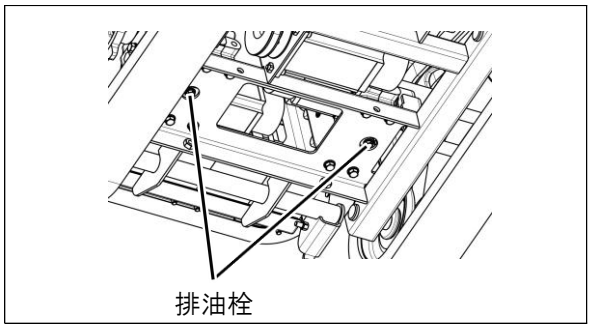
①ミッションオイルの点検

●エンジンが水平になる場所に止め、給油栓を外して油量が口元まであるか確認します。
●不足しているときは給油口の口元まで補給します。



②ミッションオイルの交換

●ケース下部の排油栓を外してオイルを抜きます。
●排油栓を取付けた後、給油栓より給油口の口元まで給油します。



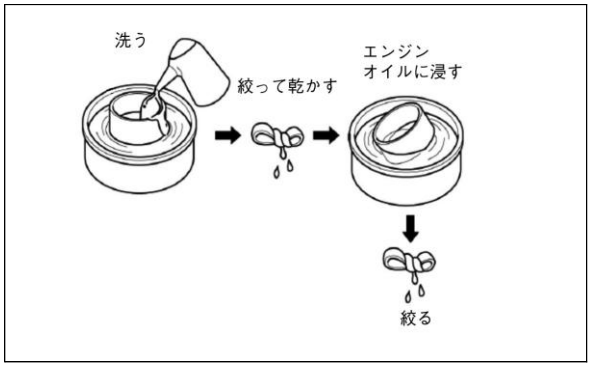
・オイル…ギヤオイル
API・GL-4級以上、SAE・80W
・オイル量…0.6L

7-5 エアクリーナの清掃

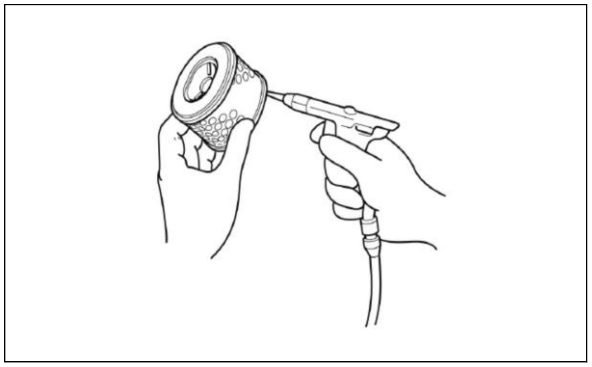
危　険

◆エレメント、フィルタの洗浄にはガソリンを使用しないでください

●ウレタンフォームは洗い油で洗い、よく絞ってから乾かします。乾燥後エンジンオイルに浸し、固く絞ってから取付けます。



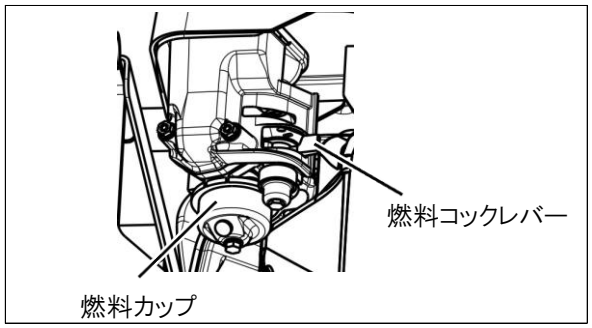
●紙エレメントは内部から圧縮空気を吹きつけるか、または軽くたたいて汚れを落としてください。



7. 定期点検・整備のしかた

7-6 燃料カップの清掃

●燃料カップ内に水またはごみがたまっていないか点検します。
●燃料コックレバー<<閉>>にし、カップを外して灯油できれいに洗浄して取付けます。



7-7 点火プラグの点検と清掃

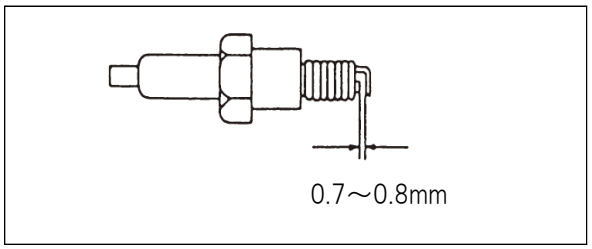
警　告

◆リコイルスタータグリップを引くときはプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

重　要

◆プラグキャップを外したままでリコイルスタータグリップを引かないでください。
◆点火プラグをエンジン側にアースしないでリコイルスタータグリップを引かないでください。エンジン電気回路の故障になります。アースして点検してください。
◆点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しないときは新しい点火プラグと交換してください。

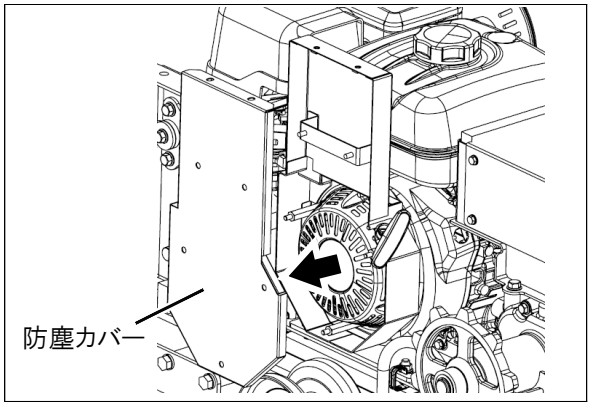
●プラグキャップを外して付属のボックスレンチで点火プラグを外します。
●点火プラグについているカーボンを取除き、電極スキマが「0.7～0.8mm」になるように点検調整します。
●電極部が損耗または破損しているときは、新しい点火プラグと交換します。
●点火プラグを取付け後、プラグキャップを確実に差込みます。



・使用点火プラグ・・・・・・　NGK-BPR6ES
DENSO-W20EPR-U

7-8 リコイルカバーの清掃

●リコイルスタータ部の吸気口はきれいに清掃します。草くず、ごみ等の付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。（ここからエンジンの冷却風が吸い込まれます。）
●防塵カバーを外して、中に堆積した草くずやごみ等を取り除いてください。



7-9 燃料ホースの点検

危　険

◆燃料ホースの外皮のはがれ、および継手部より燃料がもれていないか確認してもれていたときは、火災の原因となりますので交換してください。

●燃料ホースの劣化や傷による燃料もれがないか、または継手部のクランプがゆるんでいないか点検します。異常がなくても２年ごとに交換します。

7-10 スロットルワイヤの点検と調整

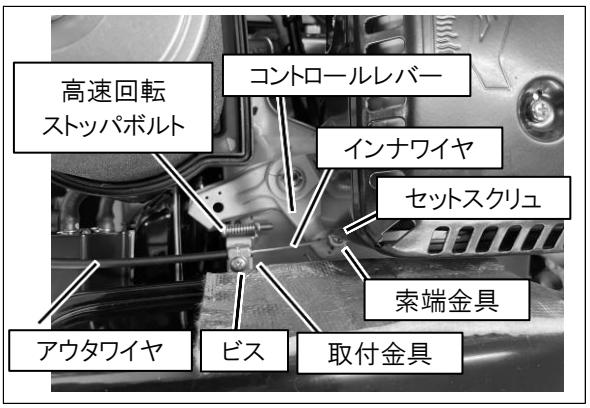
重　要

◆スロットルワイヤ先端部のセット位置が悪いと、スロットルレバーを<<低>>位置にしてもエンジンのアイドリングが高かったり<<高>>位置にしても最高回転に達しないときがあります。

①点検

●スロットルレバーをいっぱい<<低>>にした位置で、低速回転ストッパが低速回転ストッパボルトに当たっていることを確認してください。

●スロットルレバーをいっぱい<<高>>にした位置で、コントロールレバーが高速回転ストッパボルトに当たっていることを確認してください。



②調整

●アウタワイヤ先端を取付金具に通し、しっかり固定してください。

●低速回転ストッパを低速回転ストッパボルトに当てておきインナワイヤを索端金具に差込み、セットスクリュで固定します。

7-11 クローラの点検と調整と交換

重　要

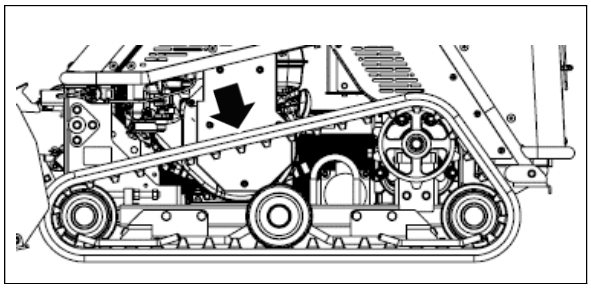
◆クローラの張りがゆるいと傾斜地で外れやすくなります。

◆クローラを張りすぎると転輪の遊びがなくなり機械がこわれることがあります。

①クローラの点検

●クローラ上部の中央部を196N{20ｋｇ}程度で押して、たわみ量が25～35ｍｍになっているを確認します。

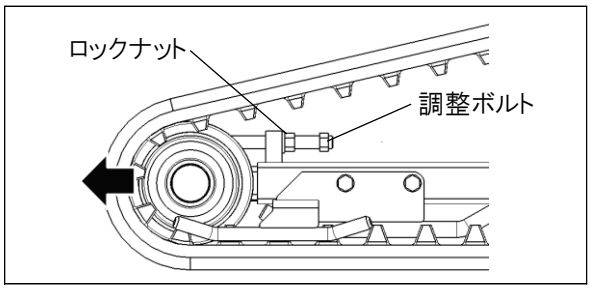
●また、左右のクローラの張りが同じになっているかを確認します。



②クローラの調整

●調整ボルトのロックナットを緩めて、調整ボルトを締込んで転輪を矢印の方向に張ります。

●また、左右のクローラの張りが同じになっているかを確認し、ロックナットで固定します。



③クローラの交換

●ロックナットを緩め、次に調整ボルトを左に回転させ、クローラの張りを緩めます。このとき、駆動スプロケットとクローラが外れる位置まで緩めます。

●古いクローラを抜き取り、新しいクローラと交換します。

●調整ボルトでクローラの張り調整を行なった後、ロックナットで固定します。

7. 定期点検・整備のしかた

7-12 Vベルトの点検と調整

警　告

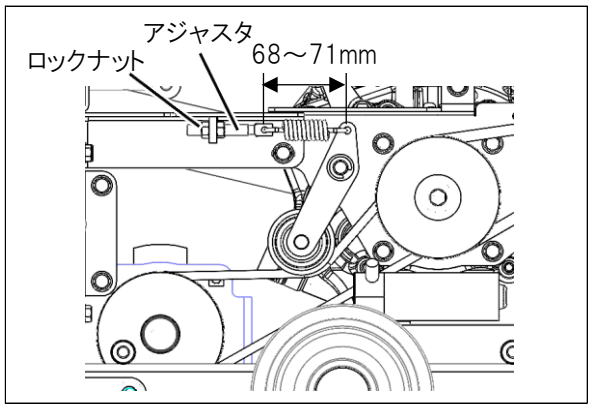
◆機械を平坦で硬い場所に止め、エンジンを停止して電源を切り、各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆取外したカバー等はすべて取付けてからエンジンを始動してください。
◆調整後、異常なく作動することを試運転で確認してください。

①発電用ベルトの調整

重　要

◆Vベルトの張りがゆるいとVベルトのスリップにより発電効率が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。

●ベルトカバーを外します。
●スプリングの長さが68～71mmになっているか確認します。
●アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さをアジャスタで調整します。

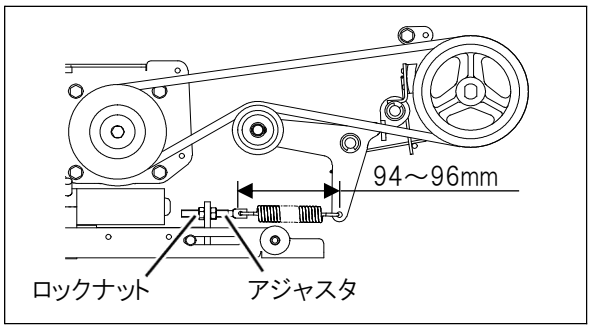


②駆動用ベルト(車両側)の調整

重　要

◆Vベルトの張りがゆるいとVベルトのスリップにより作業効率がおよび性能が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。
◆Vベルトを張りすぎると刈刃クラッチを切っても刈刃の回転が停止できなることがあります。

●ベルトカバーを外します。
●送信機の電源を入れます。
●本機の電源を入れて刈刃クラッチスイッチをONにします。
●スプリングの長さが94～96mmになっているか確認します。
●アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さをアジャスタで調整します。
●刈刃クラッチスイッチをOFFにして、電源を切ります。



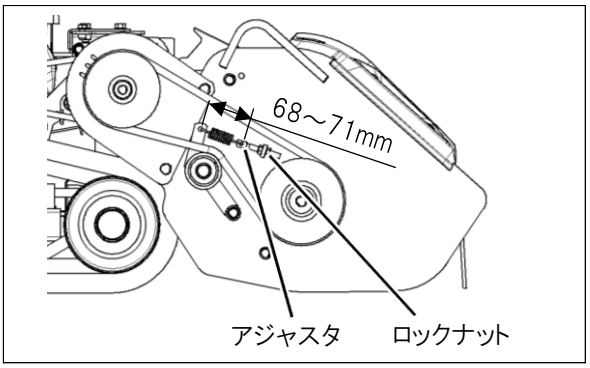
③駆動用ベルト(刈刃側)の調整

重　要

◆Vベルトの張りがゆるいとVベルトのスリップにより作業効率がおよび性能が低下し、Vベルトの損傷も早くなります。

●ベルトカバーを外します。
●スプリングの長さが68～71mmになっているか確認します。
●アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さをアジャスタで調整します。

7. 定期点検・整備のしかた

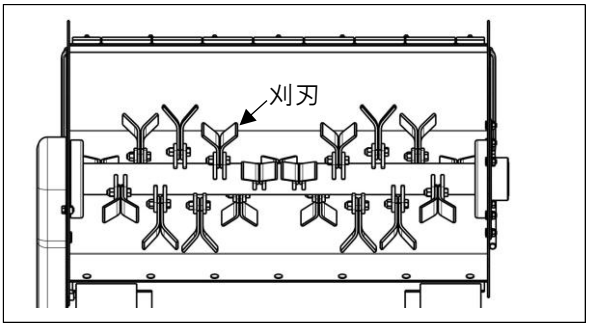


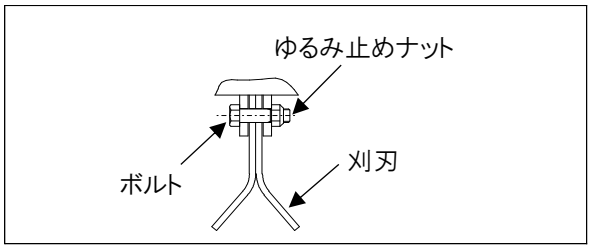
7-13 刈刃の点検と交換

警　告

◆刈刃の取付けが不十分だったり破損した部品や、極端に摩耗した刈刃を使用しつづけると振動による機械の破損原因となり危険ですので、作業前には点検してください。
◆摩耗した刈刃を交換するときは全数(38枚)同時に交換してください。(回転バランスがくずれると振動が大きくなり危険です)

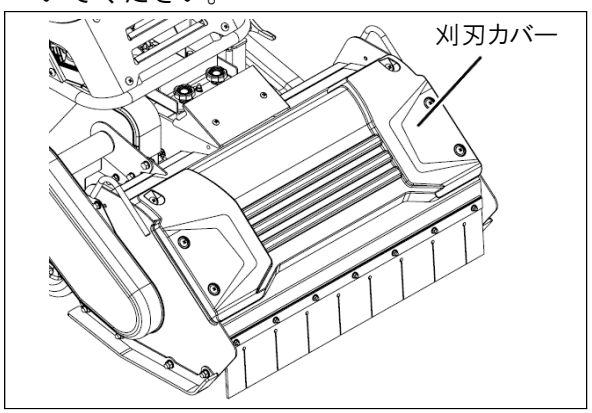
●刈刃の角が摩耗して切れ味がわるくなったときは、刈刃をうら返しにして取付けると新しい刈刃の角が使えます。
●刈刃(全38枚)は刈刃取付金具(全19箇所)に2枚づつ背合せでボルトとゆるみ止めナットで取付けてあります。
●ゆるみ止めナットは平たい方をボルトに向けてネジ込みます。
●ボルトはナット端面よりねじ山が2山以上突出していることと、2枚の刈刃が刈刃取付金具のなかで回動できることを確認してください。





7-14 刈刃カバーの清掃

●刈刃カバーの内側に草や泥等がたまるとうまく刈ることができなかったり機械に無理な負荷がかかるため、こまめに取除いてください。

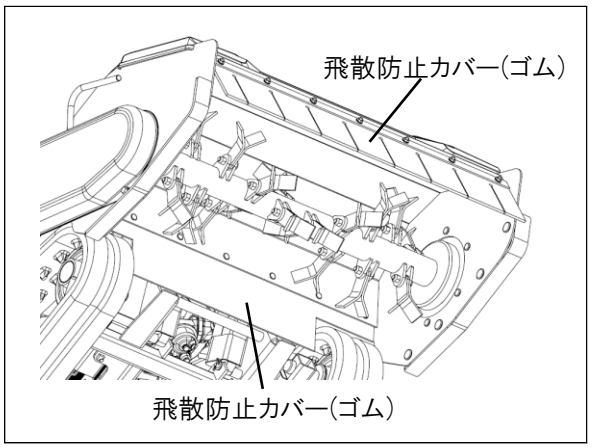


7-15 飛散防止カバーの点検

警　告

◆飛散防止カバーがやぶれたり変形して短くなっていると石等の異物の飛散が多くなり危険ですので交換してください。

●飛散防止カバーを点検してやぶれや変形を確認したときは交換してください。



7. 定期点検・整備のしかた

7-16 バッテリの点検

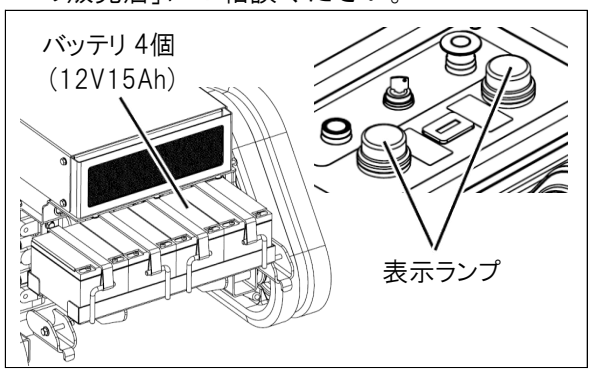
警　告

◆バッテリの点検や取外すときはエンジンを停止して電源を切ってから行なってください。
◆バッテリを取外すときは、短絡(ショート)事故を防ぐため、最初にバッテリのマイナスコード(黒)を外し、接続するときは最後にバッテリのマイナスコード(黒)を接続してください。
◆バッテリを充電しているときはタバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中に可燃性ガスが発生しますので、引火爆発することがあります。
◆バッテリの汚れをふき取るときは帯電する恐れがありますので、乾いた布を使わないでください。

重　要

◆バッテリは使用しないときでも自然放電します。3か月に1回は充電してください。

●電源スイッチをONにして表示ランプの色を確認してください。
●表示ランプが紫色点滅のときはエンジンをフルスロットルで30分程度稼働して充電してください。
●充電後、エンジンを停止して表示ランプの色を確認してください。
●充電後も紫色点滅のときは「お買い上げの販売店」にご相談ください。



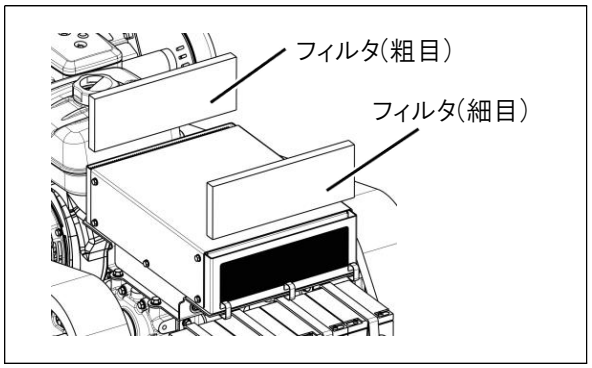
●バッテリに傷や異常な膨らみがあったときも「お買い上げの販売店」にご相談ください。

7-17 フィルタの点検

重　要

◆電装ボックスのフィルタに草くずやごみが付着していたときは清掃してください。
◆フィルタを清掃するときは電装ボックスから外して行なってください。
◆バッテリ側にフィルタ(細目)を差込んでください。
◆電装ボックスのふたを開けないでください。分解されると修理や保証ができなくなります。
◆また、故障の原因になりますので水は絶対にかけないでください。

●電装ボックス内へのごみ等の進入を防ぎます。こまめに清掃をしてください。



7-18 電気配線の点検

危　険

◆バッテリや配線に付着している草くずやごみはきれいに取除いてください。守らないとショートして火災をおこす恐れがあります。

●電気配線が他の部品に触れていないか、外皮のはがれや継手部のゆるみはないか点検してください。

8. 長期格納のしかた

8-1 長期格納

⚠ 危　険

◆本機にシートカバーをかけるときはモータやエンジン等の高温部が冷えてから行なってください。

⚠ 警　告

◆機械の清掃・点検・整備をして、風通しのよい屋内に格納してしてください。

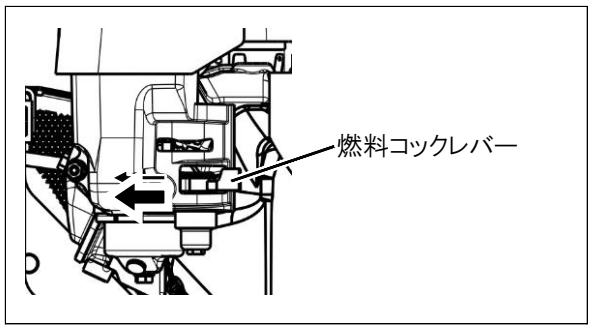
⚠ 注　意

◆機械を使用しないときは必ずキーを抜いて安全な場所にキーを保管してください。

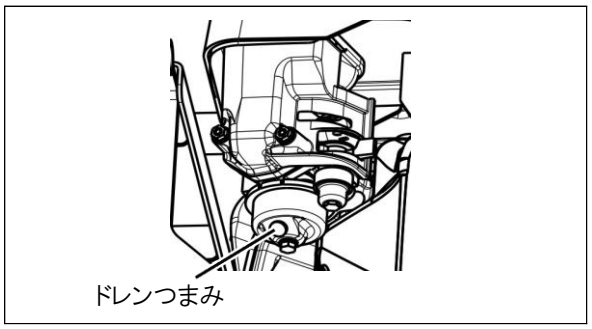
重　要

◆錆の発生を防止するため、塩分の強い貯蔵庫や肥料と同じ場所に格納しないでください。
◆バッテリは使用しないときでも自然放電します。3か月に1回は充電してください。(35ページ 7-16参照)

●機械を風通しのよい平坦な場所に止めます。
●刈刃部は地面の間に乾燥した板を敷き、降ろします。
●塗装がはげた箇所には補修塗料を塗り、機体の錆びやすい箇所にはグリスかオイルを塗布します。
●回転部・摺動部・ワイヤ等には錆びないよう注油します。
●燃料コックレバーを<<閉>>位置にします。



●ドレンつまみを1～2回転ゆるめて燃料を抜き取ります。
●燃料コックレバーを<<開>>位置にします。
●燃料が出なくなったらドレンつまみを確実に締付けます。



●バッテリを機械から取外して風通しのよい冷暗所に保管してください。もしくはマイナス側の接続を外してください。

8-2 再使用するとき

格納後、初めて使用するときは定期点検整備表の作業前点検を行なった後に運転します。(26ページ 7-1参照)

9. 不調時の処置

警　告

◆作業中に不調が発生したときは機械を広い平坦な場所に停車し、エンジンを停止してから電源を切ってください。
◆エンジン回りの点検・整備は、エンジンが冷えてから行なってください。
◆取外したカバー等はすべて取付けてからエンジンを始動してください。

●不調が発生したときは、すぐにその原因を調べて処置をし、故障が大きくならないようにしてください。
●原因がわからないときや調整しても再発するときは「お買い上げの販売店」に相談し、点検を受けてください。
●そのときは不調の状況とあわせて「型式名」・「機械番号」をお知らせください。

9-1 エンジン関係

不調の状況	原　因	処　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
エンジンが始動しない	始動操作を誤っている	エンジンスイッチを<<入>>位置にする	18ページ 5-1参照
		キースイッチを<<入>>位置にする	
		非常停止スイッチを<<運転>>位置にする	
	チョークレバーを引いていない	エンジンが冷えているときは、チョークレバーを引いて始動する	18ページ 5-1参照
	燃料タンクに燃料がない	燃料を補給する	29ページ 7-2参照
	燃料コックが<<閉>>になっている	燃料コックを<<開>>にする	18ページ 5-1参照
	エアクリーナにごみが詰まっている	エレメントを清掃する	30ページ 7-5参照
		汚れていれば交換する	
	カップに水･ごみがたまっている	カップを外して清掃する	31ページ 7-6参照
	点火プラグが湿っている（チョークのしすぎ等）	点火プラグを外してよく乾燥させる	31ページ 7-7参照
	点火プラグの火花が出ていないまたは、出ても弱い	点火プラグの電極スキマを調整する	
		点火プラグのカーボンを清掃する	
		点火プラグを新品に交換する	
	スロットルレバーの位置はよいか	スロットルレバーをやや<<高>>側に回す	18ページ 5-1参照
エンジンの力がでない	カップに水･ごみがたまっている	カップを外して清掃する	31ページ 7-6参照

9. 不調時の処置

不調の状況	原　因	処　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
エンジンの力がでない	エアクリーナにごみが詰まっている	エレメントを清掃する	30ページ 7-5参照
		汚れていれば交換する	
	リコイルスタータ吸気口の目詰まり	清掃をする	31ページ 7-8参照
	エンジンオイルの不足・不良	オイルを規定量まで補給する	29ページ 7-3参照
		汚れていれば規格のオイルと交換する	
	エンジンの圧縮圧力がない	「お買い上げの販売店」に相談する	
	エンジンの回転が十分あがらない	スロットルワイヤのセットおよび取付部のゆるみを点検する	32ページ 7-10参照
	チョークレバーが<<閉>>になっている	チョークレバーを<<開>>にする	18ページ 5-1参照
	刈刃カバー内に草や泥が詰まっている	草や泥を取除く	34ページ 7-14参照
		刈刃に巻き付いたものを取除く	
エンジンが突然停止した	燃料が不足している	燃料を補給する	29ページ 7-2参照
	急な過負荷	草や泥を取除く	34ページ 7-14参照
		刈刃に巻き付いたものを取除く	
エンジンが止まらない	エンジンスイッチの配線端子が外れている	「お買い上げの販売店」に相談する	
	電装ボックスの故障		

9-2 本機関係

不調の状況	原　因	処　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
直進性が悪い クローラが外れる	クローラの張りが左右でちがう	左右のクローラともに規定の張りに調整する	32ページ 7-11参照
	クローラがゆるんでいる		
	30°以上の傾斜面で使用している	30°以上の傾斜面では使用しない	
	転輪が損傷している	転輪を交換する	
	右トリムスイッチの調整がおかしい	右トリムスイッチで微調整する	14ページ 3-4参照
刈刃が停止しない	ベルトを張りすぎている	Vベルトの張りを調整する	33ページ 7-12参照
	刈刃クラッチの故障	「お買い上げの販売店」に相談する	
	電装ボックスの故障		
	送信機の故障		
刈刃が回転しない	ベルトがスリップしている	Vベルトの張りを調整する	33ページ 7-12参照
	ベルトが摩耗している	Vベルトを新品に交換する	
	刈刃クラッチの故障	「お買い上げの販売店」に相談する	
	電装ボックスの故障		
	送信機の故障		

9. 不調時の処置

不調の状況	原　因	処　置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
刈り残しが出る	作業速度が速い	作業速度を遅くする	21ページ 5-4参照
	エンジン回転が低い	スロットルレバーを<<高>>にする	
	草丈が長い	二度刈りする	
	刈刃が摩耗している	刈刃を裏返して取付ける	34ページ 7-13参照
		刈刃を全数同時に新品と交換する	
購入時よりも振動が大きくなった	刈刃の摩耗が大きい	刈刃を全数同時に新品と交換する	34ページ 7-13参照
	新品の刈刃と古い刈刃が一緒に取付けている		
	刈刃の破損や脱落		
	刈刃部への巻き付き	刈刃に巻き付いたものを取除く	34ページ 7-14参照
	刈刃取付け部の破損	「お買い上げの販売店」に相談する	
刈刃部が昇降しなくなった	昇降装置の故障	「お買い上げの販売店」に相談する	
	電装ボックスの故障		
	送信機の故障		
バッテリが充電しなくなった	ベルトがスリップしている	Vベルトの張りを調整する	34ページ 7-12参照
	ベルトが摩耗している	Vベルトを新品に交換する	
	バッテリの故障や劣化	バッテリを新品に交換する	35ページ 7-16参照
	発電機の故障	「お買い上げの販売店」に相談する	
	電装ボックスの故障		
走行しなくなった	走行モータの故障	「お買い上げの販売店」に相談する	
	電装ボックスの故障		
	送信機の故障		

10. 付　表

10-1 仕様諸元

型 式 名			AIR700
機体寸法	全長	(mm)	1695
	全幅	(mm)	860
	全高	(mm)	675
	最低地上高	(mm)	80(刈取部を除く)
	クローラ外幅	(mm)	735
	装備重量	(kg)	260
エンジン	名称		HONDA GX270
	種類		4ｽﾄﾛｰｸ強制空冷単気筒25° 傾斜OHV
	総排気量	(cc)	270
	定格出力	(kW{PS}/rpm)	5.1{6.9} / 3600
	最大出力	(kW{PS}/rpm)	5.9{8.0} / 3600
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量	(L)	4.1
	オイル量	(L)	1.1
	始動方法		リコイルスタータ式
走行部	走行動力		左右独立駆動 400Wブラシレスモータ
	走行速度	前進 (km/h)	0 ～ 4.0(無段階)
		後進 (km/h)	0 ～ 3.5(無段階)
	ゴムクローラ(幅×ピッチxリンク)		110 × 60 × 40
	接地圧	(kg/cm2)	0.13
	登坂能力	(°)	30
	バッテリサイズ		鉛蓄電池　12V-15Ah　×　4
刈刃部	刈刃方式		ハンマナイフ
	刈幅	(mm)	700
	刈高	(mm)	0 - 180
	刈刃回転直径	(mm)	280
	刈刃数	(枚)	38
送信機	送受信方式		2.4GHz帯 T-FHSS Air方式
	前進・後進		左ジョイスティック
	右旋回・左旋回		右ジョイスティック
	刈刃クラッチ　入・切		刈刃スイッチ
	刈高さ設定		刈高さ調整ダイヤル

＊この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

10. 付　表

10-2 標準付属品

品　　名	数量	備　　考
取扱説明書	1	本書
エンジン取扱説明書	1	型式:GX270
送信機取扱説明書	1	型式:T10J
保証書	1	取扱説明書の最終ページに印刷してあります
プラグレンチ	1	エンジン付属品
単三電池(4本)	1	送信機用
消火スプレー	1	

10-3 消耗部品一覧

＊純正部品を使用してください。
市販類似品をご使用になりますと、機械の不調・故障・寿命を短くする原因になります。

＊純正アタッチメントを使用してください。
市販類似品をご使用になりますと、作業効率の低下や機械の不調・故障・寿命を短くする原因になります。

＊ご用命のときは、「部品名称」・「部品番号」・数量を販売店にお知らせください。

No.	部品名称	部品番号	数量/台	備　　考
1	スロットルワイヤ	AR70 5156 000	1	
2	Vベルト(発電)	AR70 0206 001	1	SA31 W600
3	Vベルト(本機)	AR70 0205 000	1	SB44 W1000
4	Vベルト(刈刃)	PM80 3210 000	1	SC41 W800
5	刈刃	1469 1335 000	38	
6	ボルト	CM80 3108 001	19	ネジロック剤塗布
7	ゆるみ止めナット	A353 0110 000	19	
8	飛散防止カバー(前)	AR70 3308 001	1	
9	飛散防止カバー(後)	AR70 3307 001	1	
10	クローラ	AR70 1312 002	2	110 x 60P x 40L
11	刈刃ブレーキ	AR70 1616 002	1	
12	バッテリ	AR70 0616 000	4	12V 15Ah
13	フィルタ(細目)	AR70 1828 001	1	電装ボックス用
14	フィルタ(粗目)	AR70 1829 000	1	電装ボックス用
15	消火スプレー	AR70 3811 000	1	
16	クローラガイド	AR70 1327 000	4	
17	スキッド(左)	AR70 3323 000	1	
18	スキッド(右)	AR70 3324 000	1	
19				
20				

保　証　書

この度は、弊社製品をお求めいただきありがとうございます。
保証期間内に取扱説明書等の注意書きに従った正常なご使用状態で故障した場合には、本書記載内容にもとづき無料修理をいたします。お買い上げの日から下記の期間内に故障した場合には、製品と本書にレシートまたは領収書を付けてお持ちいただき、お買い上げの販売店または弊社に修理をご依頼ください。

製品名	AIRAVO	機械番号 （製造番号）	

保証期間		お買い上げより1年もしくは累計50時間のうち、どちらか早く到達したほう （ただし、消耗部品は除きます）		
お客様	ご住所			
	お名前	様	TEL	
取扱販売店名 住所 TEL				
お買い上げ年月日				

1．保証期間内でも次のような場合には、有料修理となります。
（イ）ご使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
（ロ）弊社の指定する部品、または定められた作業機以外のものをご使用したことによる故障または損傷。
（ハ）お買い上げ後の衝撃、落下あるいは移動、輸送等による故障または損傷。
（ニ）火災、地震，水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障または損傷。
（ホ）保管の不備およびお手入れの不備による故障または損傷。
（ヘ）本書の提示がない場合。
（ト）本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合。あるいは字句を書き換えられた場合。
（チ）使用用途以外にご使用になられた場合。
（リ）ご使用によるキズ、変色、褪色または汚れ等の場合。
（ヌ）消耗部品（オイルシール、フィルタ、ゴム製品、クローラ、刈刃、Ｖベルト、バッテリ、油脂類、ヒューズ等）または別売り部品の場合。

2．本製品の故障等に伴う二次的損害に対する保証はいたしません。
3．無料修理の際に取外した部品は、誠に勝手ながら弊社の所有とさせていただきます。
4．本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

● この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料の修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明な場合は、お買い上げの販売店または弊社までお問い合わせください。

● 本書は国内においてのみ有効です。

オカネツ工業株式会社
岡山市東区九蟠1119-1

取扱説明書をよく読んで正しく安全に使いましょう。
農業機械は十分に点検整備するように心がけましょう。

OKANETSU
オカネツ工業株式会社
〒704-8161 岡山市東区九蟠1119-1
URL：http://www.okanetsu.co.jp

販売店名

品番：AR70 3802 000